幕末・明治・大正

回顧八十年史

第二十輯

東京・東洋文化協會・發行

◎口繪解說◎

◎『立太子式當日の迪宮裕仁親王殿下』

大正五年十一月三日迪宮裕仁親王殿下は午前六時四十分陸軍歩兵大尉の御正裝にて、奉迎の爲參候せる勅使伊藤式部次長以下供奉員を從へさせ給ひて高輪御殿御出門、宮城に着御の上、空頂黑幘に黃丹闕腋の大口を召され、賢所大前に御參進、大正天皇は皇太子の御象徵たる壺切の御劍と共に勅語を賜りて無事式を終らせ給うたが、是實に皇儲令御制定後の最初の立太子式であつて意義深き御式であつた。寫眞は當日の迪宮殿下卽ち今上陛下を拜寫したものである。

◎『ギルドホールに於けるロンドン市歡迎會』

我皇太子殿下の海外御巡遊は未曾有の盛儀であつたが、大正十年五月十一日御着英の第二日目、ロンドン市長は我皇儲殿下をギルドホール（市廳）に御招待申上げて盛大なる歡迎會を開催した。此日我皇太子殿下は英皇太子プリンス・オブ・ウエールス殿下を御同伴、林駐英大使、主馬頭チエスターフィールド卿御陪乘、六頭立の宮廷馬車を召されて會場に赴かせられ市長ゼームス・ロール氏夫妻の御出迎を受けさせ給うて定めの席に着かせ給うた。會場にはヨーク公、コンノート殿下を初めロンドン朝野の名士雲の如くに參集、やがて金襴のガウンを着けたる市長ロール氏は起つて歡迎の辭を謹嚴なる口調を以つて朗讀したる後、之を黃金の匣に納めて殿下に捧呈した。殿下は直に御起立遊ばされ

『予は倫敦市民の懇切なる歡待を嘉納する。此歷史的に名高い室に於て倫敦市民の名の下に貴下が提出された歡迎の辭を衷心感謝する次第である。予は嘗て英日兩國が共通の理由の下に戰つた日を想起して無限の感慨なき能はざるものである。予は平和の日の來れるを喜ぶが、而も恒久の平和を確保し正義を樹立せんが爲に吾人々類が努むべき責務の大なるを切實に感ずる、予は今最初の海外旅行に於て過去二十年間我日本の親愛なる同盟國にして東洋平和の確保の偉業を共にした友邦を訪問した事を喜ぶ、願くは譽高い倫敦市民の上に限り無き幸福と繁榮とを與へられたい』と颯爽たる御態度と朗々たる御聲とを以て御答辭を述べさせ給ひ、林駐英大使之を英譯し奉れば滿場割るゝが如き大喝采大拍手嵐の如くに起り、參列の光榮に浴したる日本官民は、殿下の堂々たる王者の御風格を目のあたりに拜して皆感激の涙に咽んだと云ふ。

本御寫眞中、殿下の背後は市長ロール氏夫妻で、右の卓上にはロンドン市の權章たる黃金の劍と杖とが置いてある。參列貴顯名士は前列右より、コンノート殿下、ヨーク公、閑院宮殿下、英皇太子プリンス・オブ・ウエールス殿下、又、ロンドン市長に向つて其左に、林駐英大使、其左後方は珍田侍從長である。

幕末明治大正 回顧八十年史 第二十輯 目次

口繪（原色版）

『立太子式當日の廸宮裕仁親王殿下』……
『ギルドホールに於けるロンドン市歡迎會』……

玻璃版

佛國飛行團の來朝……四九三
佛飛行團員の拜謁、飛行團次長ラゴン少佐の葬儀、飛行協會の送別會、佛國より寄贈の傳書鳩。
憲法發布三十年記念祝賀會……四九四
憲法發布祝賀會大宴會、參列の各大臣、憲法記念館外觀、憲法記念館內部。
李太王殿下の國葬……四九五
李太王殿下、喪服の李王殿下、大漢門前の市民の哀悼、大正八年三月一日訓練院葬場殿に於ける國葬、大輿葬場殿に入らんとす、大漢門前の朝鮮人の哀號。
靖國神社五十年祭……四九六
靖國神社五十年祭、參拜の名士。
皇太子殿下御成年式……四九七
御成年式當日の東宮殿下、東京市奉祝塔の電飾、馬場先門外の奉祝塔。
明治神宮立柱式……四九八
明治神宮斬始式、立柱式、立柱式の楔子打込み、青年團員の勞役奉仕、明治神宮。
戰利潛航艇の到着と英軍タンク……四九九
英軍タンクの到着、戰利潛航艇の横須賀着、皇族妃殿下の戰利潛航艇御視察。
ロシヤ歌劇團の來朝……五〇〇
ロシヤ歌劇團の『カルメン』、椿姫に扮せるオシボワ孃、カルメンに扮せるスルスカヤ孃、『アイーダ』のアモネリスに扮せるスルスカヤ孃。
下ノ關東京間走破・ページェントの始……五〇一
日比谷公園に到着せる金栗・秋葉兩選手、ページェントの始、公設市場の始。
兩國々技館の竣工……五〇二
最初の國技館、大正八年四月組立中の有樣、大正八年四月二十日大旋風の爲に倒潰せる大鐵傘、大正八年五月組立の有樣(一)、大正八年五月組立中の有樣(二)、大正八年八月十日の上棟式、大鐵傘下の上棟式場。
國技館開館式……五〇三
開館式當日の國技館、横綱大錦の土俵入、古式三段構への式。
尼港事件(一)……五〇四
獄壁に貼されたる同胞の遺書、パルチザンの幹部、我守備隊の入市、燒き拂はれたるニコラエフスク、同胞百四十名の呻吟せる牢獄。
尼港事件(二)……五〇五
尼港日本領事館全景、ニコラエフスク市全景、殉難せる石田領事一家及び館員、第一陣地となれる日本兵營、追悼會に於ける原首相、九段坂上の殉難記念碑と遺兒石田芳子。
第一回國際勞働會議……五〇六
大正八年十月二十九日米國ワシントンに開催の第一回國際勞働會議出席員、勞働使節の出發、勞働者代表桝本氏反對運動、桝本代表の出發、婦人顧問田中孝子夫人。
李王世子殿下の御婚儀……五〇七
大正十一年五月七日京城王城內石造殿に於ける兩殿下御成婚の御披露會、大正十一年五月五日昌德宮園遊會に於ける李王世子及び妃殿下。

東宮殿下の御外遊（一）……五〇八
海軍御正裝の東宮殿下、三田通御通過の殿下、御召艇と香取の皇禮砲發射、東京驛前の奉送門、琉球御上陸、御渡歐地圖。
東宮殿下の御外遊（二）……五〇九
御召艦香取　御召艦上にて在留小學生に賜謁、セイロン島カンディ植物園御遊覽、エヂプト・カイロ博物館前の殿下、スフインクス御撮影中の殿下。
東宮殿下の御外遊（三）……五一〇
ポーツマスへ進航中の御召艦、御上陸の殿下、ヴイクトリア停車場の御閱兵、ウインゾル宮殿に向はせらる。
東宮殿下の御外遊（四）……五一一
五月九日ビクトリア停車場より英皇と御同乘バツキンガム宮殿に向はせらる、バツキンガム宮殿前に奉迎する在留邦人、ロンドン市より捧呈の歡迎文入黃金匣、五月九日ホワイトホールの世界大戰々死者記念塔に花環を捧げ御禮拜遊ばさる殿下、五月十八日ケンブリツヂ大學より名譽法學博士の學位を贈られ給ふ。
東宮殿下の御外遊（五）……五一二
ヘンレー飛行場御訪問、首相ロイドヂヨージ氏別邸御訪問、エヂンバラ古城を訪はせ給ふ、ブラツセル博物館御巡覽、リエーヂユ戰跡御視察、エツフエル塔御遊覽。
東宮殿下の御外遊（六）……五一三
オランダ國アムステルダムに御着王宮に赴かせらるゝ殿下、エマヌエル三世陛下と御同乘キリナーレ宮殿に向はせらるる殿下、横濱御安着香取艦上にて乾杯遊ばさるゝ殿下、萬歲聲裡に東京に御還啓。
東宮殿下御外遊、七）……五一四
バス勳章御佩用の東宮殿下、パリーよりツーロンに至る御日程表、駐英大使主催奉迎晩餐會の獻立表、和蘭に於ける御日程表。
大正年間の著名なる音樂家……五一五
作曲及び指揮者山田耕作氏、作曲及び指揮者近衞秀麿氏、三浦環女史、ヴアイオリン幸田延子女史、ピアノ小倉末子女史　ピアノ久野久子女史、大正十四年四月二十五日歌舞伎座にて開催の日露交驩大管絃樂會。
映畫實演の台覽・大正映畫界の人々……五一六
映畫界最古の俳優尾上松之助、松之助實演『櫻井驛』、山本嘉一、早川雪洲、上山草人、諸口十九、酒井米子、栗島スミ子。
名士のおもかげ……五一七
土方久元、田中光顯、渡邊千秋、波多野敬直、金子堅太郎、井上勝、青木周藏、林董、大東義徹、辻新次、岡部長職、井上毅、渡邊國武、野村靖、佐野常民、山尾庸三。
教育界の名士……五一八
福原鐐二郎、高田早苗、山川健二郎、加藤弘之、中村正直、新島襄、菊地大麓、富井政章、岸本辰雄、梅謙二郎、福澤諭吉、江原素六、岡野敬二郎、佐藤昌介、濱尾新、杉浦重剛、新渡戸稻造、加納治五郎。

記事

大正七年

八幡製鐵所疑獄事件……軍艦「河內」の爆沈……英國コンノート殿下御來朝……富山外五縣下の米騷動……日本軍艦陸戰隊の浦鹽上陸……浦鹽派遣軍の出發……寺內內閣の總辭職・原內閣出現……東伏見宮殿下御渡英。

大正八年

スペイン感冒流行す……李太王葬去と朝鮮の不穩……日本委員國際聯盟原則に贊成す……東宮殿下御成年式……奠都五十年祝賀會……東京市內各新聞社全部休刊……世界平和の克復……平和記念の大觀兵式と市中の祝賀……京城南大門驛頭の棒事。

大正九年

平和宣布の大詔渙發……國技館新築落成……尼港慘殺事件……李王世子垠殿下御婚儀……羅馬尼皇太子御來朝……新たに國勢院設置さる……社會局の新設……明治神宮御鎭座祭……國際聯盟第一回總會。

大正十年

閔元植暗殺事件……東宮殿下の御外遊……小說家協會と無名作家同盟……日英兩國の共同通告。

立太子式當日の迪宮裕仁親王殿下

大正五年十一月三日皇太子迪宮裕仁親王の爲に立太子禮を行はせられたが此式は即ち立儲令御制定後最初の立太子禮で實に意義深きものであつた。此日親王は高輪御殿御出門宮城御參內。空頂黑幘に闕腋の御袍にて賢所御參拜の後大正天皇より璽切の御劒と勅語とを拜受され、引續いて朝見式を行はせられ式を了御てれらせは式御參の門出御殿御輪高は眞寫。たう給せらるあで樣有

ギルドホールにおける市歡迎會

大正十年五月十一日御着英の第三日目ギルドホール（市廳）に於いて盛大なる市歡迎會上に於ては長市ロンドンの辭迎歡の下殿子太皇太后陛下（今爽颯たる御英姿）で下殿に向つて右の方後は下殿。又、妻夫氏ルーロ・スムーゼ長市ロンドンは方後の下殿。るあで眞寫御の時當たつ起き捲く如の嵐手拍の喚讃され盡し了魅を士名顯貴の百數場滿に格風の者王たる堂々晉玉るた。

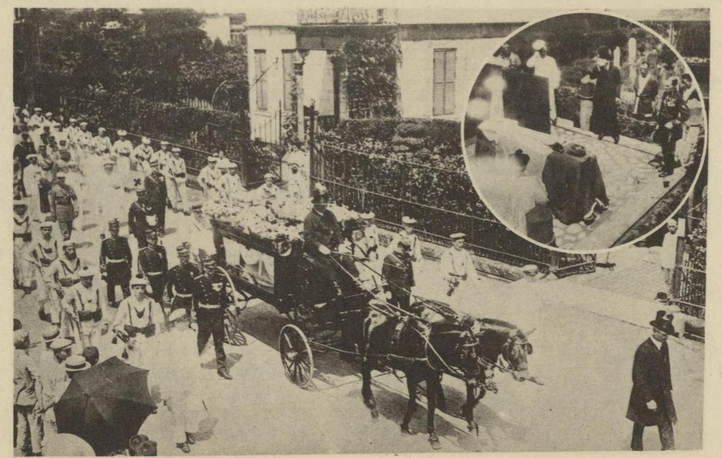
ロンドンの市權章たる黄金製の劍と杖とを交叉し置てい端右つて向列前は士名。るあて置てし叉をど杖と劍の製金黄るた章權の市ロンドンは

下殿トーノンコ、下殿スルーエウ・ブオ・スンリブ儲皇英、下殿宮院閑、公クーヨ、下殿子太皇太英駐は左の長市、助權林使大英

林大使の椅子左の方後は珍田侍從長で

佛國飛行團の來朝

右、飛行協會の送別會
飛行團の爲に帝國飛行協會は早稲田大隈侯邸にて其送別會を開き團長以下四十名出席した。中央久邇宮殿下、右フォール大佐、左、大隈侯。
下、佛國より寄贈の傳書鳩
佛國陸軍より寄贈の一千羽の傳書鳩が大正八年四月一日東京に着した。右より教官クラツキン少尉、同夫人、ストリープ軍曹、同夫人である。

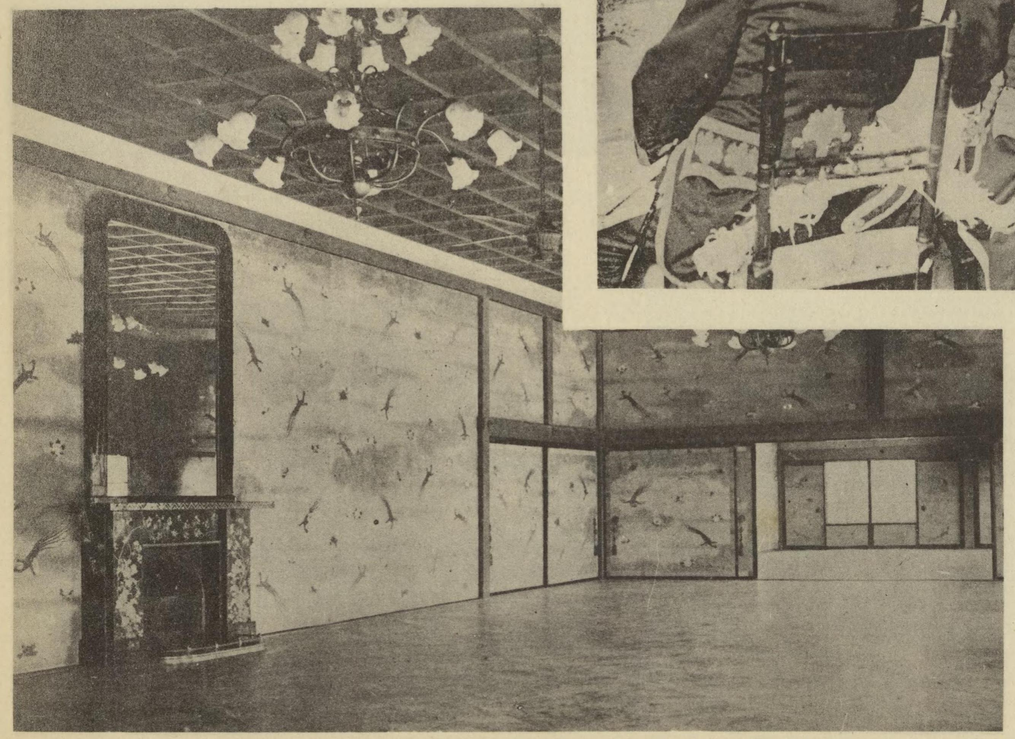


上、佛飛行團員の拜謁
大正八年一月二十七日佛飛行團長フォーク大佐一行二十三名は宮中に參內、大正天皇より拜謁を許された。
左、飛行團次長ラゴン少佐の葬儀
來朝の飛行團次長ルイ・オーガスト・ラゴン少佐は八年八月一日横濱オリエンタル・ホテルにてピストルにて自殺同四日葬儀があつた。

世界大戰は航空術の急速な進歩を促し爲に我陸海軍よりは將校を佛國飛行團に派遣したのであつた。大正八年大佐以下二十三名を迎へ所澤、各務ヶ原等にて教授を受け海軍も亦英國より佛國飛行團を迎へ研究してゐたのであつた。大正八年ルーフ大佐以下二十二名を迎へ所澤、各務ヶ原等にて教授を受け陸軍も亦佛國より團員を迎へ研究してゐたのであつた。
又傳書鳩は大戰中通信機關として大功を奏したのであつた。佛國より優秀な傳書鳩一千羽を我陸軍に寄贈し教官クラツキン少尉ストリープ軍曹を派遣して飼養及通信法を授教したのである。
我國に紹介せられ改めて

憲法發布三十年記念祝賀會

右、憲法記念館外觀
下、憲法記念館內部
二間續き百八十疊敷であつて正面は玉座である。



上、憲法發布祝賀會大宴會
向つて右端、立てるは大岡議長。
左、參列の各大臣
左より、原首相、加藤海相、田中陸相、山本農相、床次內相、中橋文相、野田逓相、伊東巳代治子、加藤高明子、寺藤海軍大將。

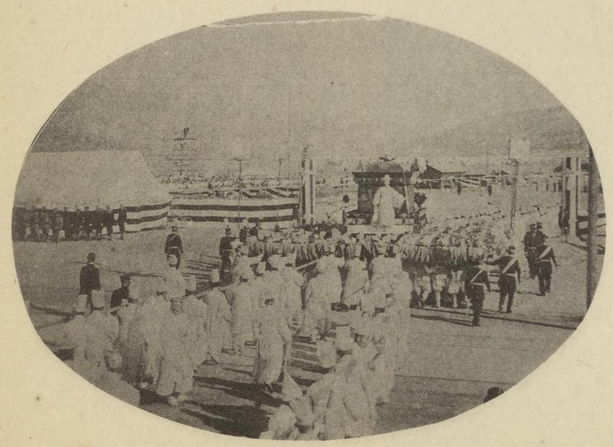
大正八年二月十一日帝國憲法發布三十年記念祝賀會が青山權田原の憲法記念館にて摩行せられ御名御代名として閑院宮殿下臨遊ばされ午後三時御到着、明治大帝の玉座のあり記念の一室にて墨田貴族院副議長、大岡衆議院議長等の賀表を受けさせられ百八十餘の參列の萬歳三唱の後殿下には還啓あり次いで食堂は開かれて祝盃を擧げ大岡議長の發聲にて憲政の萬歳を三唱して午後五時目出度散會した。

李太王殿下の國葬

上、大正八年三月一日朝鮮院葬場殿に於ける國葬
下、大輿葬場殿に入らんとす

李太王殿下

上、喪服の李王殿下
朝鮮古式の麻の喪服、麻の帽子にて贊侍尹德榮氏
陪乘御馬車にて祭場に向はせらるる有樣。
下、大漢門前の朝鮮人の哀號



大漢門前の市民の哀悼
李太王薨去御發喪の大正八年一月二十二日德壽宮大漢門前の市民の哀悼

李太王殿下は大正八年一月二十二日午前六時三十分腦溢血にて薨去あり御年六十六歲。同三月一日國葬儀を行はせられ正殿に於いて李王、李王世子殿下を始め各王族に告別式發柩宮に殿場葬院鮮朝城京にて大輿を引き奉り移し殿を出で光明門に至る三十二間の木橋を渡り宮柩を大輿に移し奉り前は軍旗は大輿を擔ぎ數百人の引き綱を引き奉りて京城朝鮮葬場殿に
は午前八時三十分正殿を出で光明門に至る三十二間の木橋を渡り宮柩を大輿に移し奉り前は軍旗は大輿を擔ぎ數百人の引き綱を引き奉りて京城朝鮮葬場殿に
遣み勅使伊藤博公邦公以下の拜禮の後十一時十五分盛儀滯なく了し京城の東六里なる金谷の地に葬送し奉つたのである。

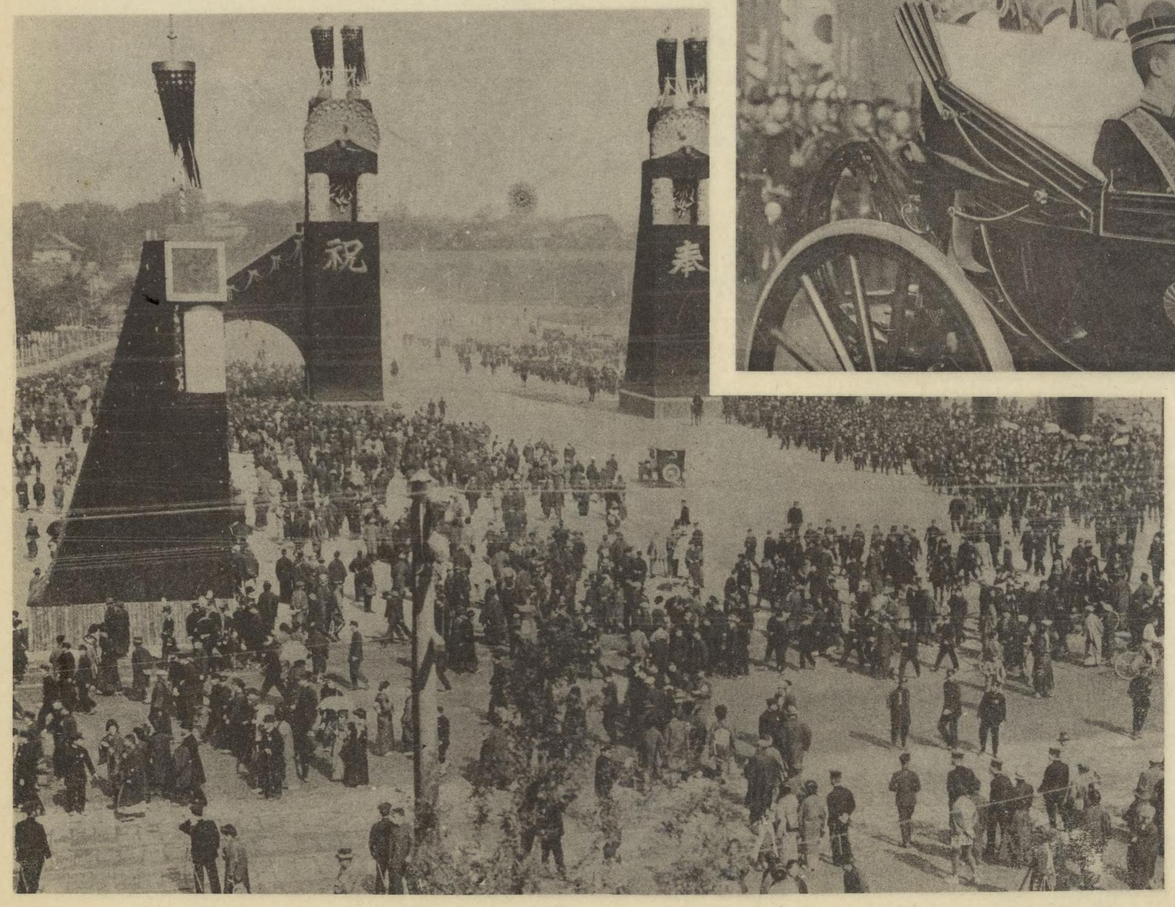
靖國神社五十年祭

上、參拜の名士
大正八年五月二日記念大祭に參拜の名士で、前なるは東鄕元帥、次ぎは井上元帥、清浦子爵、及び原首相である。

靖國神社五十年祭
大正八年五月二日靖國神社鎭座五十年記念大祭を執行せられた。圖は陸軍武官達の昇殿拜禮の有樣である。

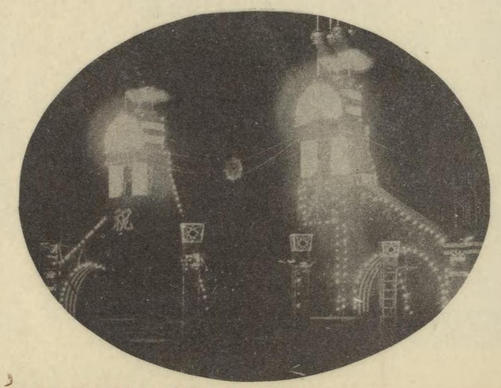
靖國神社鎭座五十年記念大祭は大正八年五月一日、二日の兩日盛大に催され、第二日目には大正天皇は午前九時半宮城御門出あり御親拜あり、次で皇太子殿下は午前十一時神前御拜あり、終つて陸海軍大臣を始め文武百官を始め以下合祀者遺族拜禮あり往く春の雨の音もしめやかなる裡に十二萬七百八十餘の英靈の在り日を偲んだのである。

皇太子殿下御成年式



上、御成年式當日の東宮殿下
大正八年五月七日御成年式當日御參內の東宮殿下

下、東京市奉祝塔の電飾



東京市の奉祝塔で高さ八十五尺、ルネサンス式及びセセッション式の折衷で柱頭には鳳凰を高く掲げ其下に金色燦然たる鳳凰があるの。

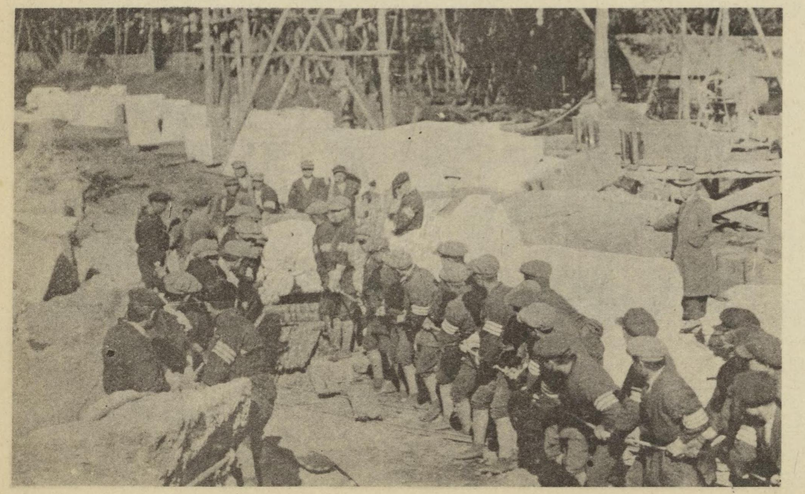
馬場先門外の奉祝塔

大正八年四月二十九日は長く皇太子殿下（今上陛下）第八十回御誕生日に當り宮中に御成年式を擧行の所、竹田宮殿下薨去につき五月七日に御延期になつたが、五月七日の當日には陸軍大將大兵步軍大尉の御禮裝に大勳位菊花大綬章其他の御佩用の勳章、入江侍從長以下供奉、午前九時東宮御所出門、宮中賢所御式を行ひ、午前十時三十分皇太子殿下御參內の御禮服及び御帽を賜ひ、午前十時三十分皇太子殿下に御禮服及び御帽の

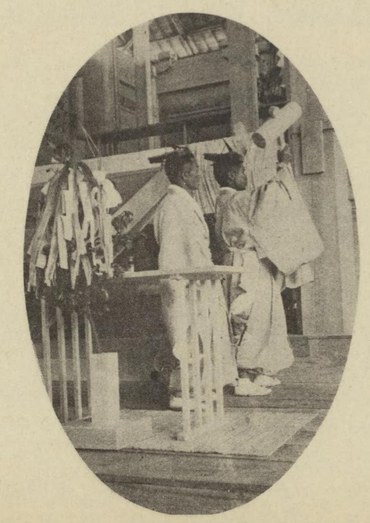
明治神宮立柱式

明治神宮

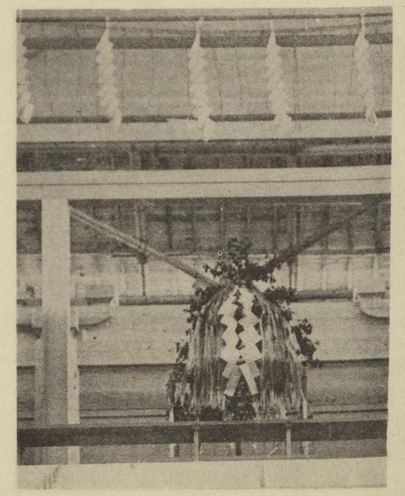
明治神宮新宮殿始式（大正五年三月二十五日）



青年團員の勞役奉仕



立柱式の楔子打込み



立柱式（本殿正面）
大正八年五月二十七日擧行

明治神宮は總坪數二十二萬九百九十餘坪、總工費四百四十四萬三千圓の豫算で起工され大正五年三月二十五日午前九時より新築式あり、爾來工事大に進み大正八年五月二十七日本殿に於ていよ
鍬を式て立柱式を執行せられ御造營局副總裁床次内相以下は金襴の冠、白麻の袍にて練習を終し八名の木工は四下一令命の木槌を以て御柱の楔子を打込みて式を擧
殿なるあでのたしと仕奉てしと間日十を期一は國年青縣岡靜りあのもるづを出申を仕奉力勞りよ國年青地各に勅敕を國年青縣青神宮造營について各地青年團よりつた。

戰利潛航艇の到着と英軍タンク

下、英軍タンクの到着
大正七年十月二十九日西部戰線にて使用せる英軍タンク（戰車）は東京に到着し附添陸軍少佐ブルース氏の指揮の下に青山練兵場にて作業をして市民に見せた。タンクは大正五年九月十五日ソンム戰に始めて參加したのである。
左、皇族妃殿下の戰利潛航艇御視察（芝浦にて）

戰利潛航艇の横須賀着
大正八年六月十八日横須賀にて到着せる獨潛航艇七隻と特務艦關東。

七、此獨逸潛航艇は分捕りにして國際法に基き連合國に分配せられたるものにして、第一は英國に、第二は米國に、第三は日本國に、第四は東京灣要塞軍に、第五は海軍省に、第六は海軍大學校に、第七は横須賀海軍工廠に配分せられたるものである。

（499）

ロシヤ歌劇團の來朝

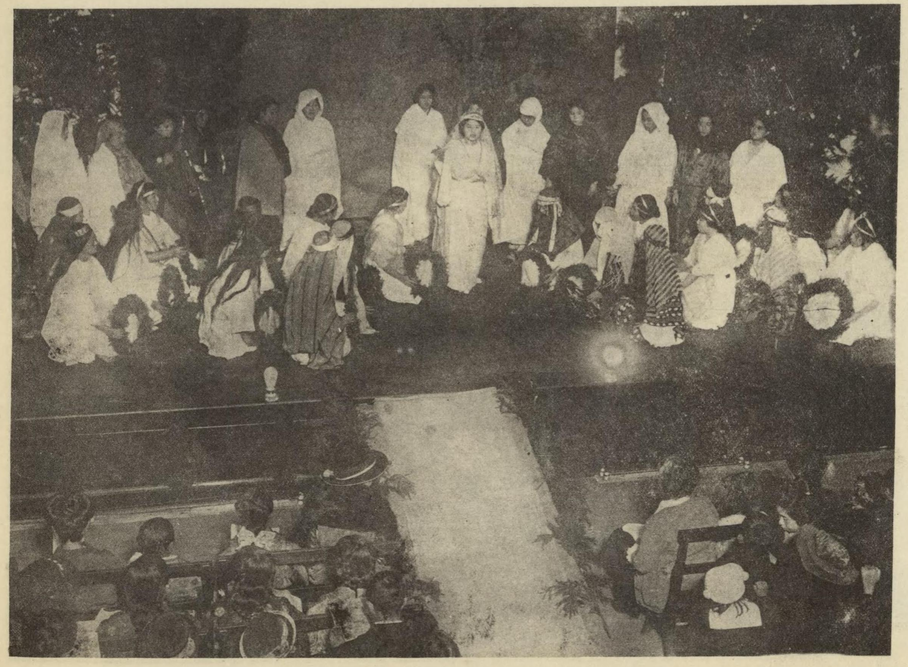
『ンメルカ』の團劇歌ヤシロ
大正八年九月一日帝劇にて上演せる歌劇カルメンの舞臺面

上、椿姫に扮せるオジポロ嬢
下右、カルメンに扮せるスルスカヤ嬢
下左、『アイーダ』のアモネリスに扮せるスルスカヤ嬢

ーイア』に共と手寒の名餘十三り成てつ以を名餘百員總女男は團同。るでらか朝來團國劇歌ヤシロるせ演開てに場劇國帝日一月九年八正大に實はのたれら見がのもきしら劇歌で本日
介紹に本日くし正がのもるなラペすてつよに團劇此でのもなり掛大ふ云とる替に毎目曲は役主へ換取晩毎を種五の『フノドゴ・スリーボ』及び『ンメルカ』、『トスーアフ』、『姫椿』『ダ
な由自と樂音いし美てめ始も民市京東がるあでのたつ渡に國米て經を本日しをげ上旗てに海上てし織組を團劇歌が々人たれは道を國本に爲の命革ヤシロは行一。るあでのもたれらせ
演技とのる和融たし大歌劇なるもにのるなり接てし連夜滿員況盛ふ云と。たつあで

下ノ關東京間走破・ページエントの始

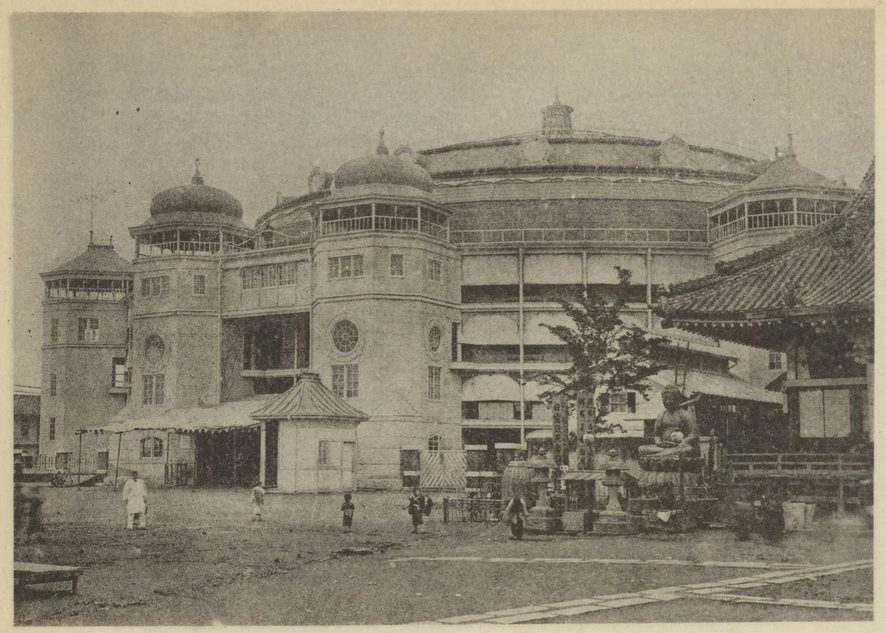
右、公設市場の始
世界大戰以來物價騰貴の爲下層民の生活困難の爲東京市では三味線堀、牛ケ淵及び四谷見附に公設市場を開いて日用品を廉價で販賣した、寫眞は下谷三味線堀の市場である。
ページエントの始
大正八年十二月二十日午後二時下、神田青年會館にて演ぜられたるページエント『奉仕』



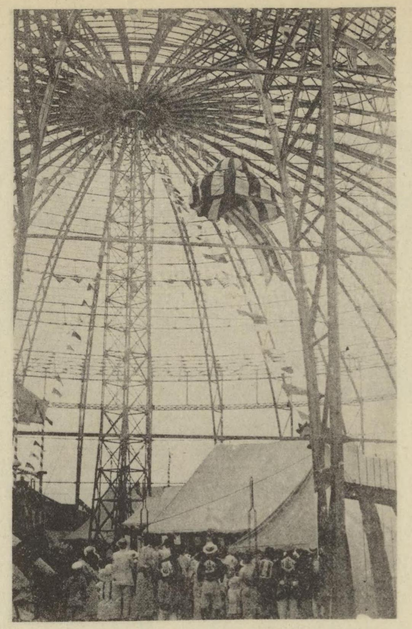
日比谷公園に到着せる金栗、秋葉兩選手
大正八年七月二十三日下ノ關を出發速日快走をつゞけ八月十日午後二時三十分東京日比谷公園內到着點に着せる金栗四三、秋葉粘之の兩選手。

東日十月八日速發出下ノ關を兩風日雨三十二月七日下ノ關東京間三百里を走破せんとして六月中よりの練習中であつたが愈よ七月二十三日下ノ關東京間三百里を走破せんとして六月中よりの練習中であつたが我國マラソン界の雄なる金栗四三及び秋葉粘の二選手は下ノ關を出發し十日午後二時三十分東京日比谷公園に到着したれば、ページエントは『劇外野』と云ふのであつて、我國に始めて演じたる『奉仕』と云ふのである。公設市場は日用品廉賣の爲に三味線堀、牛ケ淵、四谷見附に開き市價より二三割安價に販賣したものである。

兩國國技館の竣工

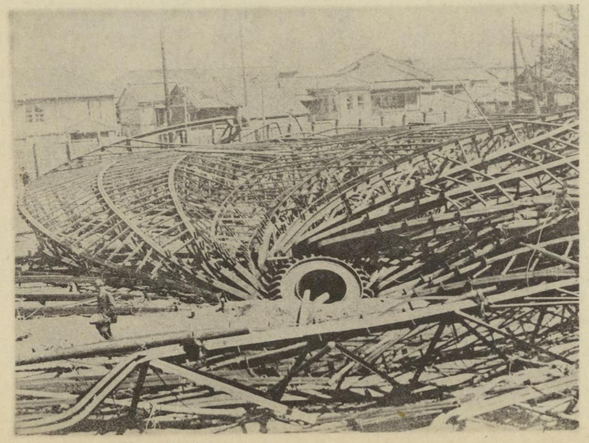


最初の國技館
七正六年十一月二十九日午前一時三十分賣店雜火より發火全燒

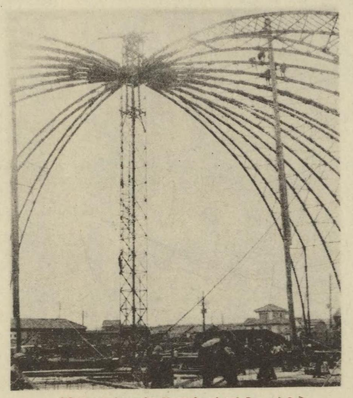


大鐵傘下の上棟式場

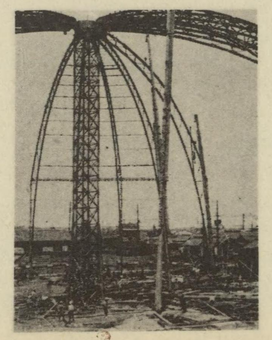
大正八年八月十日の上棟式
既餅を投げつゝある出羽ノ海(左)と樂岸機運事



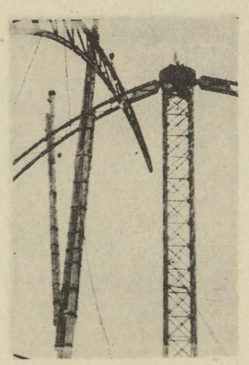
大正八年四月二十日大旋風の爲に倒潰せる大鐵傘



大正八年四月五日組立の第一回目の時(上)



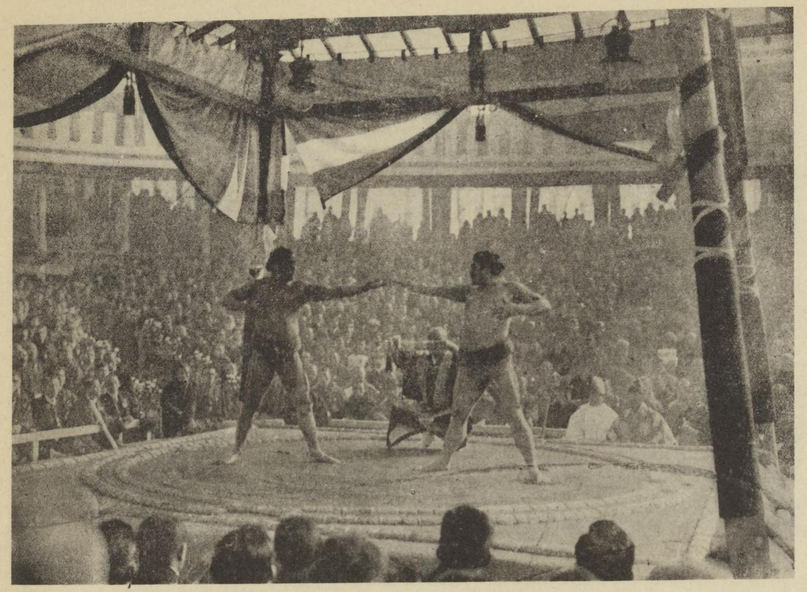
(下)大正八年五月組立の第二回目の時



(上)大正八年五月組立の第二回目の時

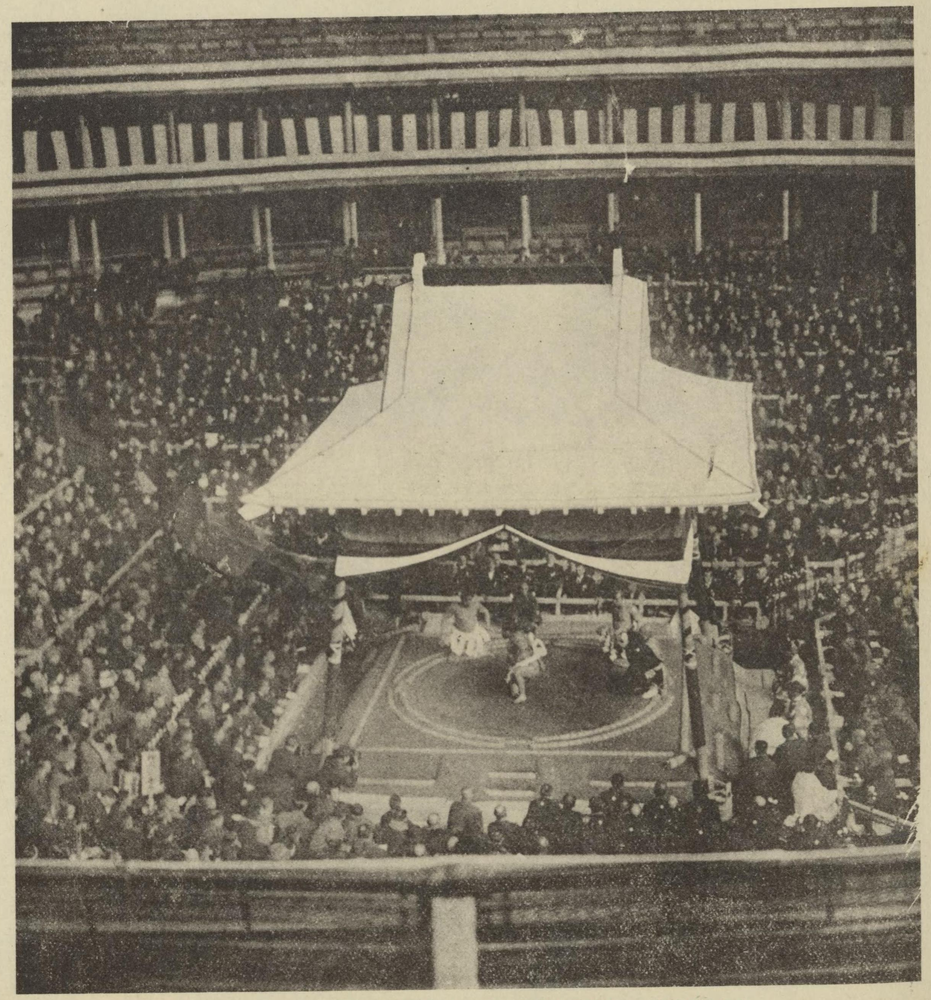
兩國の國技館は大正六年竣工してから東洋一の大建築物であつたが、去る大正八年四月二十日再建の工事中に大旋風の爲倒潰し、工事費四十五萬圓の大鐵傘の下に、一人の死傷者を出し、人夫等二十名の損害を蒙つた。延期工事は、一月七日に竣工の運びとなつた。再建の國技館は、ドーリクンコ骨組で、これらの設計は、前回と同樣である。

國技館開館式



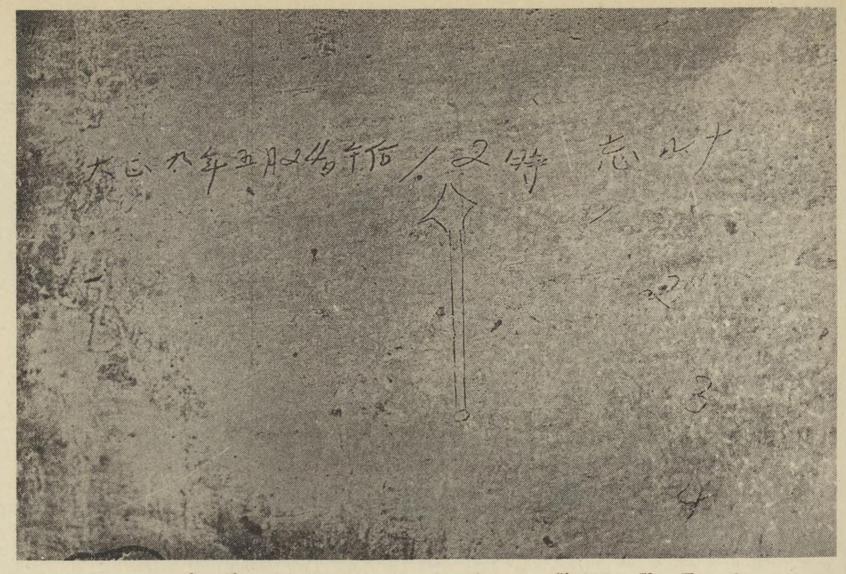
露拂　有、横綱大錦の土俵入
　　上、古式三段構への式　太刀持は栃木山
右より横綱鳳、同行司吉田清鳳、左。横綱栃木山

開館式當日の國技館
大正九年一月十五日開館式當日の有樣で寫眞は横綱大錦の土俵入である



大正九年一月十五日開館式當日の國技館は一洋東るたじ投を圓萬十三百費工と子日の年九二
一時午後一、取締出羽の海の式辭、挨拶、露子朝春元秋、ひ行を式館開りよ
、鳳追田吉司行司行吉田清、鳳、横綱大錦の土俵入、太刀持は栃木山、
、鳳横綱の三段構への式に移り吉田追鳳行司は東葵古の委司行は鳳追田吉の式辭の下以相首原ひ行を式開俵土てつよに等助之伊、助之
、山木栃てつ終り辭あの視の下以相首原ひ行を式開俵土てつよに等助之伊、助之
、鳳横綱持刀太、鳳横綱持刀太、鳳横綱持刀太

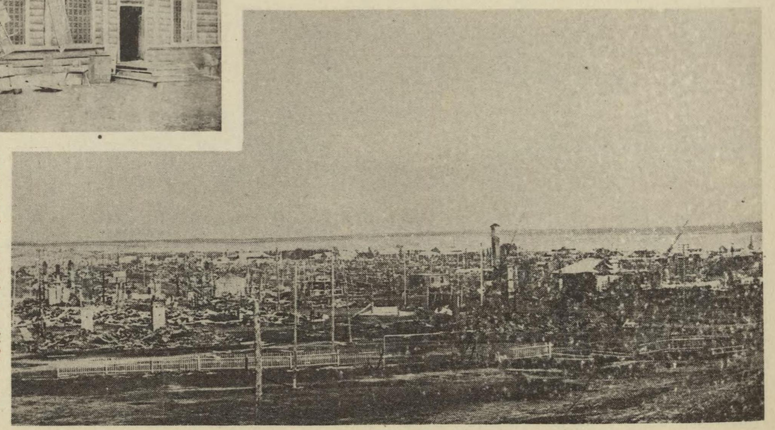
ペルチザンの幹部



上、獄壁に貼られたる同胞の遺書

獄壁面には6字まで書かれてあつて、即ち午後六時過に獄屋より引出されて殺害された事は明かである。同胞百四十名の秋子の慎を留めた遺書である。（參謀本部撮影）

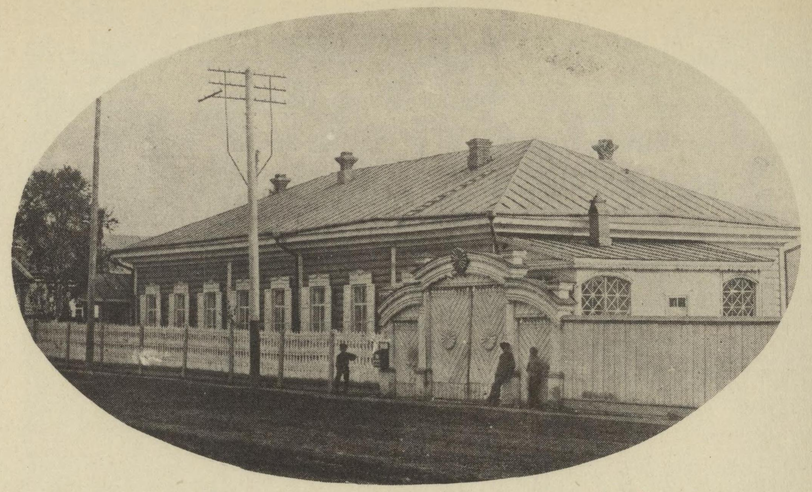
下、燃き拂はれたるニコラエフスク



同胞百四十名の呻吟せる牢獄（上）

上、中央の白衣は總司令官トリピーチン（二十五歳）婦人は二ーナレンバデアキヤカシ（二十八歳）司令官と隊枝門多は總司令官と參謀長副官。後列中央司令官は年少の風横、長隊銃隊機、右の官は風屏の後背。ペプラ令司副隊同は年少の風横、長隊銃隊機、左の官は風屏の後背。ペプラ令司副隊同

ニコラエフスク市全景（×印は日本領事館）



尼港日本領事館全景（石田家藏）

第一陣地となれる日本兵營（右）

殉難せる石田領事一家及び館員（石田家藏）
前列左端領事石田虎松氏　三人目夫人綾子と二女うらきち子
後列右端島田商會主島田元太郎氏。

九段坂上の殉難記念碑と遺兒石田芳子（左端）

追悼會に於ける原首相

第一回國際勞働會議

勞働使節の出發。十月十日伏見丸にて横濱出帆の有樣と資本家代表鎌田榮吉、武藤山治兩氏

大正八年十月二十九日米國ワシントンに開催の第一回國際勞働會議出席員（慶應大學藏）

桝本代表の出發
十月十日横濱出帆。伏見丸出帆前の反對示威運動と桝本卯平氏

婦人顧問　田中孝子夫人

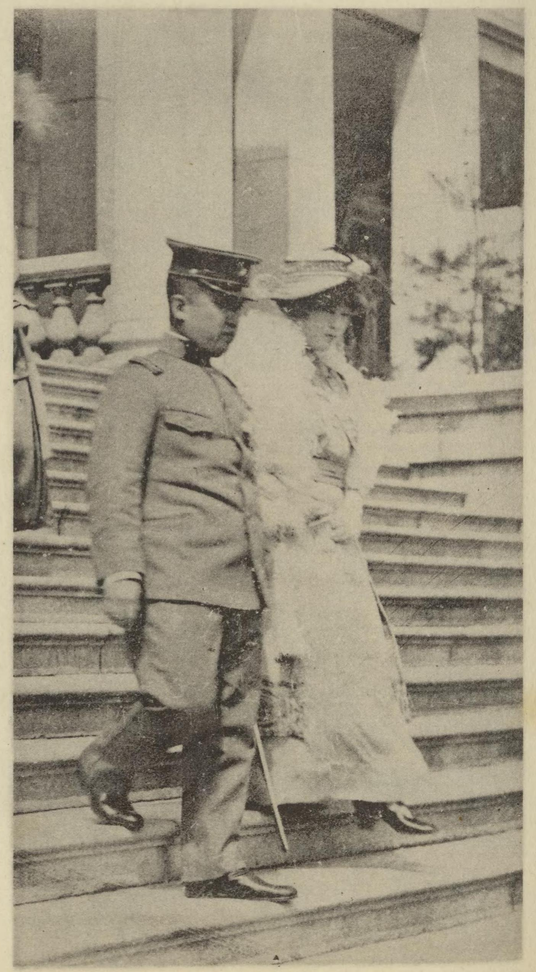
勞働者代表桝本氏反對運動（左）
大正八年十月五日友愛會及び帝大法科生指導の桝本代表反對示威行列。農商務省前行進

大正八年十月廿九日より米國ワシントンで開かれた第一回國際勞働會議には我國より政府委員として鎌田榮吉氏。資本家代表武藤山治氏が定まつたが勞働代表の工學士桝本卯平氏については友愛會を始め勞働團體の反對あり十月五日東京明治座で開かれた反對大演説會には友愛會の鈴木文治氏等の指揮の下に芝公園より會場まで大示威運動を起して氣勢を擧げ十月十日の横濱出帆の日には同船に乗て掠な樣たる群集の目を集めて顧あつたが警官の下に到着した婦人顧問としては思想家田中王堂氏夫人孝子氏が選ばれた。

李王世子殿下の御婚儀

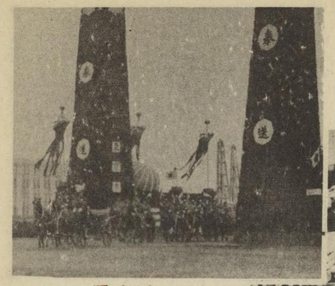
大正十一年五月七日京城王城内石造殿に於ける閑殿下御成婚の御披露會
向つて右より。李鍵公妃。李王妃。李王。王世子。德嬪妃の各殿下。

大正十一年五月五日昌德宮園遊會に
於ける李王世子及び妃殿下(下)



大正九年四月二十八日李王世子殿下は我梨本宮方子女王と御婚儀擧行あり、歷史的にも亦地理的にも關係深き日鮮兩國の永遠の親和の基礎として國を擧げて奉祝したり。而して下殿下との御婚儀擧行あり、歷史的にも亦地理的にも關係深き日鮮兩國の永遠の親和の基礎として國を擧げて奉祝したり。而して
大正九年四月二十八日李王世子殿下は我梨本宮方子女王と御婚儀擧行あり、歷史的にも亦地理的にも關係深き日鮮兩國の永遠の親和の基礎として國を擧げて奉祝したり。而して
鮮日報は盛大に祝賀の意を表したり。
年八月十八日晋殿下の御誕生あり、十一年四月二十三日兩殿下は晋殿下を伴はせ給うて御歸鮮李王同妃兩殿下に御對面があつたり。五月五日大園遊會、七日御披露會は盛大に
兩國人の歡喜の裡にあつて晋殿下の御急病にて幾去せられたりはのたれらは極の悼哀であつたり。

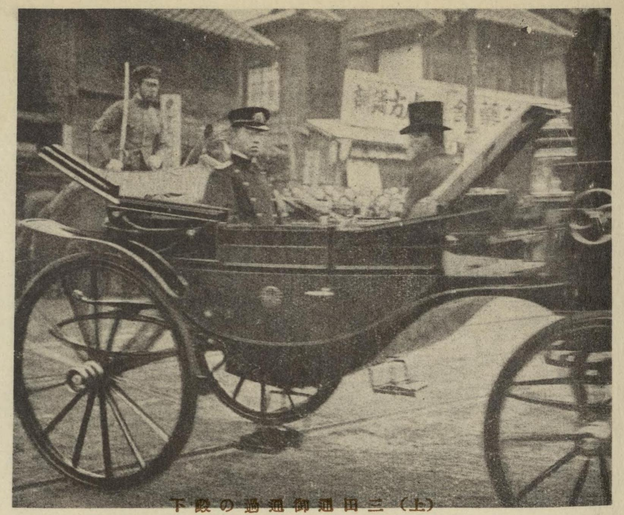
東宮殿下の御外遊（一）



東京驛前の奉送門（左）

琉球御上陸（右）
三月六日午後一時半琉球首里城に向はせられ尙侯爵邸より御出門の殿下。後方は閑院宮殿下
御渡歐地圖（下）

海軍御正裝の東宮殿下（今上陛下）

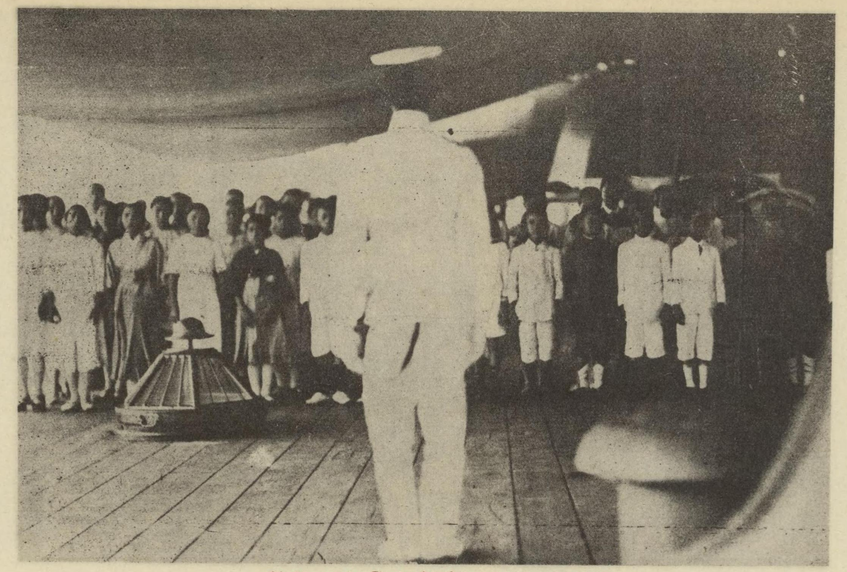


（上）三田通御通過の殿下
大正十年三月三日午前八時三十分高輪御出門三田聖坂より東京驛に向はせられる。
（下）御召艇と香取の皇禮砲發射
午前九時廿五分東京御發車十時十二分横濱御着直ちに艦載水雷艇にて御召艦香取に御乘艦あらせられた。

大正十年三月三日東宮殿下は今し在に歐洲御巡遊あらせられる。實に建國以來未曾有の有壯擧の御渡歐に當り海軍少佐の通常禮服を召され侍從長御陪乘無蓋馬車に八時十分御出門東京驛に向はせられ午前十時十二分、直ちに御召艦に御乘艦あらせられ、十一時一分御召艦は錨を上げて萬里の鵬程に向ひ鹿島を後へ一路南下、琉球首里城に向はせられ尙侯爵邸より御出門の殿下。後方は閑院宮殿下に御告別の登艦を行はせられ、六日琉球に御寄港上陸あらせられ午後六時水盃の盛大な奉送の裡に御出發香港に向はせられ、十日香港着次いでルーガンシに向はせられる。

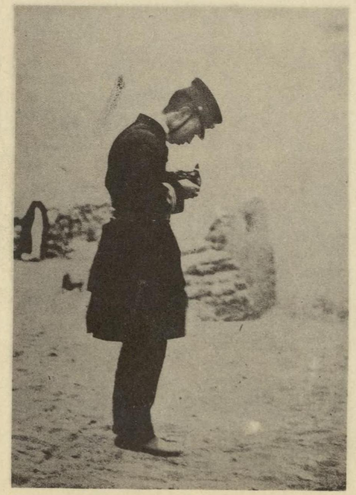
東宮殿下の御外遊（二）

セイロン島カンディ植物園御遊覽
三月廿九日御遊覽中の殿下。左は閣下殿宮讀

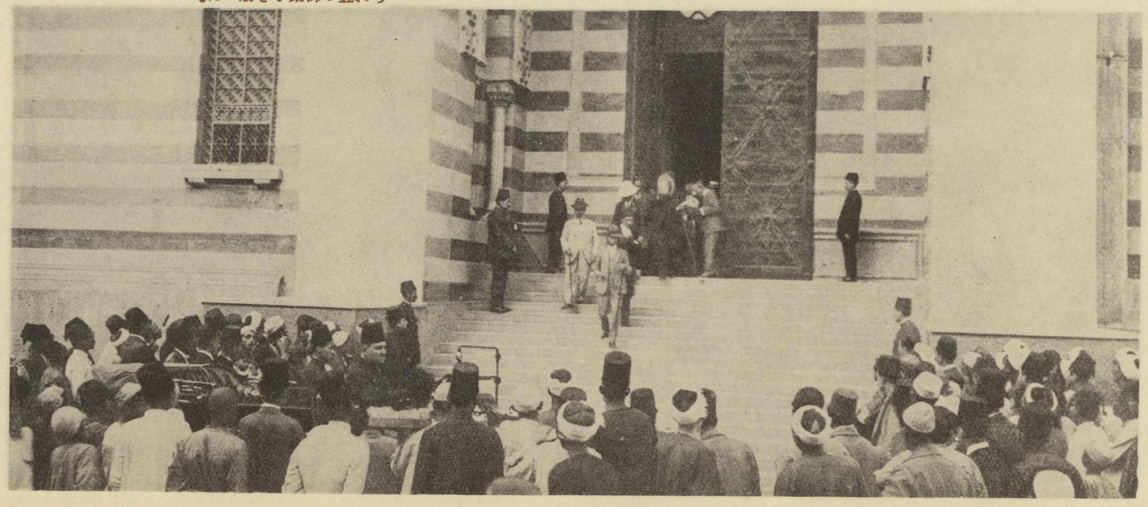


御召艦上にて在留小學生に賜謁
三月廿日午後シンガポールに在留邦人小學生五十五名に特に御召艦上にて拜謁を仰付けられ且つ御菓子を賜つたる。

御召艦香取（横濱岸壁にて）



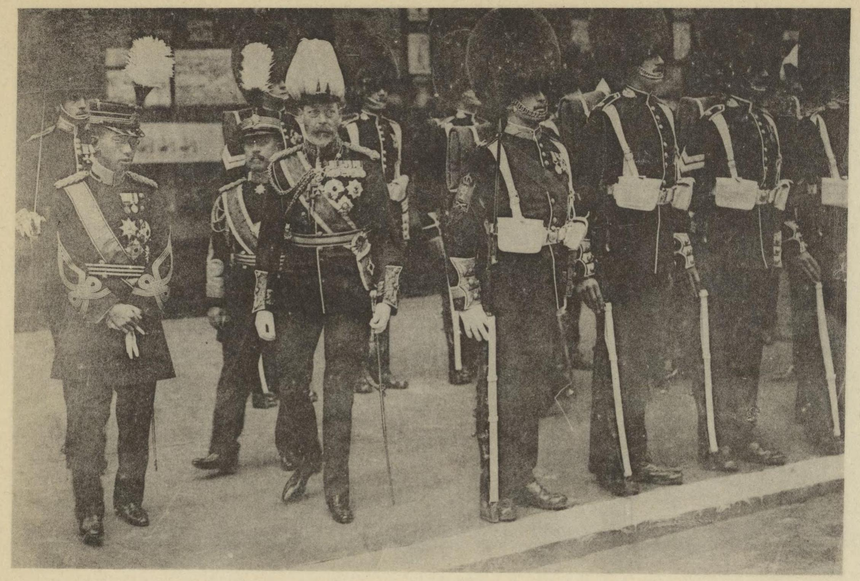
スフインクス御撮影中の殿下
四月十八日折からの熱風に砂塵漾々咫尺をも辨ぜざる中に自動車にてギゼーのピラミツト御見物あり、寫眞は同所のスフインクス御撮影中の有樣である。

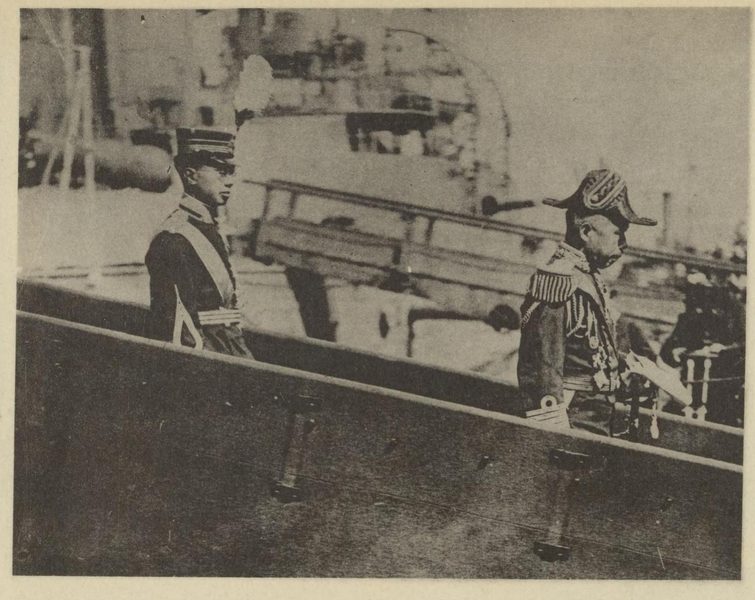


エヂプト、カイロ博物館前の殿下
四月十九日埃及カイロ博物館御見學あり、寫眞は同館附屬圖書館御退出の有樣。

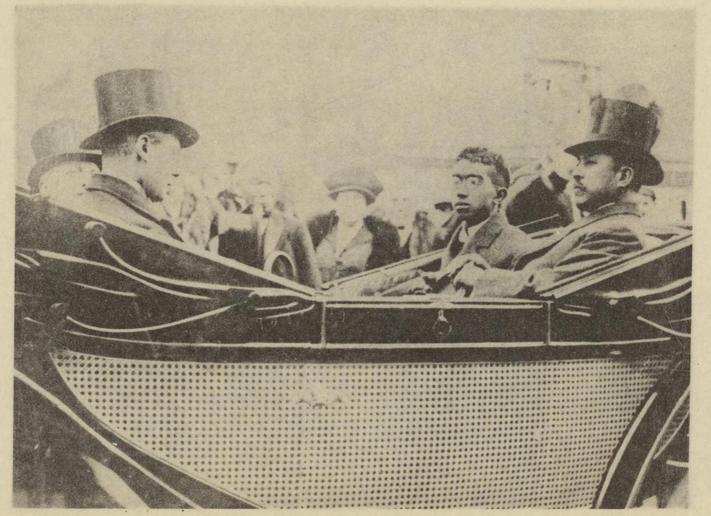
大正十年三月三十日香港御出發、十八日シンガポール着御ルーポ英艦ホーキンス號の迎出あり、在留邦人一千餘名は三井物産の明智丸に乘り込み御召艦に近付き萬歲を三唱したが此日は日八十、暫御ツトセ日七十ポ日一月四、航發御日十二日八廿、着ポンロコ日九廿、物見御ィデンカ日九廿、物見及埃及王御訪問あり二十一日御出發、十九日御訪問あり二十四日マルタ島御入港、此所にて英國軍艦四隻子女ジョージ王親と御會見あり、四月三十日ブリンディシに着し、五月三日御發航英國に向はせられたる。

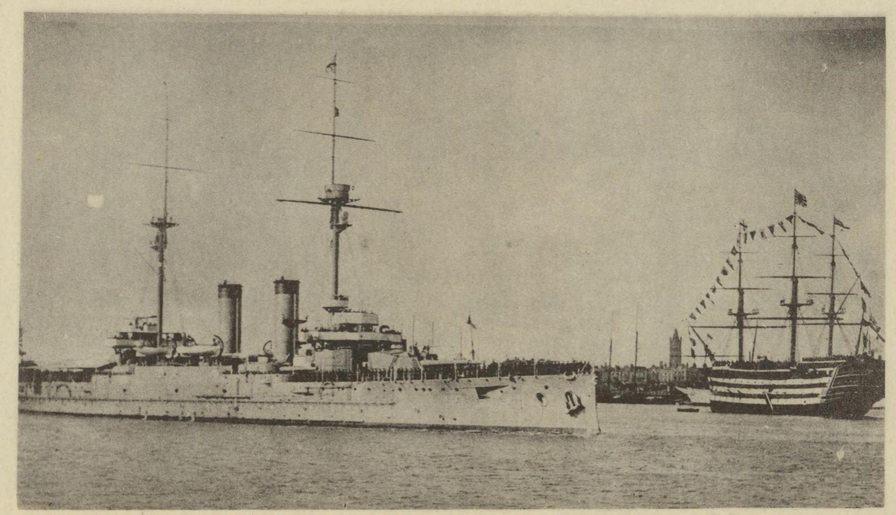
東宮殿下の御外遊（三）





下、ポーツマスへ通航中の御召艦
大正十年五月九日スピットヘッド岬よりポーツマスへ通航中の御召艦香取とネルソンの旗艦ヴィクトリー號
左、御上陸の殿下
五月九日御上陸の殿下で御先導は山本海軍大佐



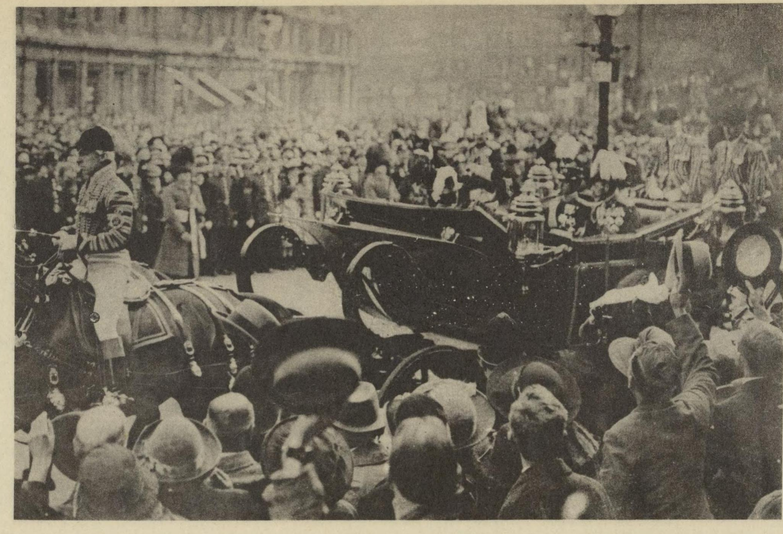


五月十日英國皇太子と御同乘バツキンガム宮殿下よりウインゾル宮に向はせらる。
上、ヴイクトリア停車場の護衛兵
五月九日午後零時四十分ロンドン市ヴイクトリア停車場御到着、英國皇帝陛下と共に近衛兵を御閲兵中の有樣。

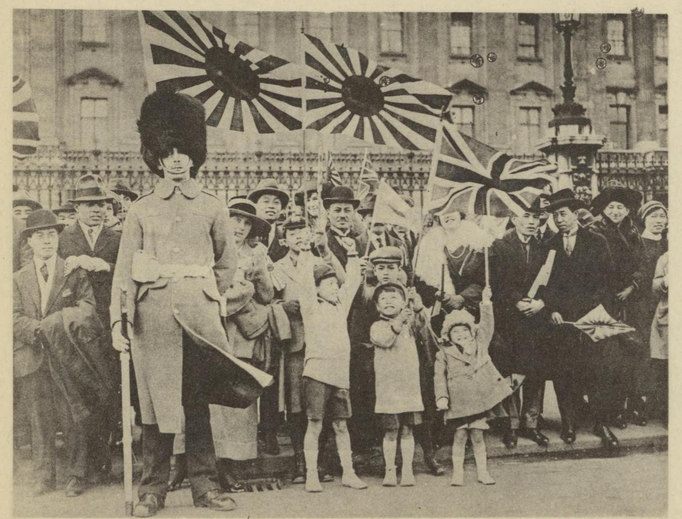
大正十年五月八日御召艦のスピツヘツド沖に其雄姿を現はすや英艦隊及び飛行隊の歡迎あり一夜此所にて御假泊あり翌九日午前八時ポーツマス港内に入り殿々たる皇禮砲極に達し市街の旗に横付けとなるやゴ皇英國諸プリンス・ヴェ・カエールス殿下は御召艦に御來訪あり同列同乘御港發車後午後零時四十分ヴイクトリア停車場止場に御到着、英國皇帝陛下と御握手あり各隨員御紹介の後、宮廷馬車に御同乘バツキンガム宮向は殿前に奉迎の許を賜はれたのでの日本服にて我國旗を振り歡呼し下殿を奉迎したものもあつた。

東宮殿下の御外遊（四）

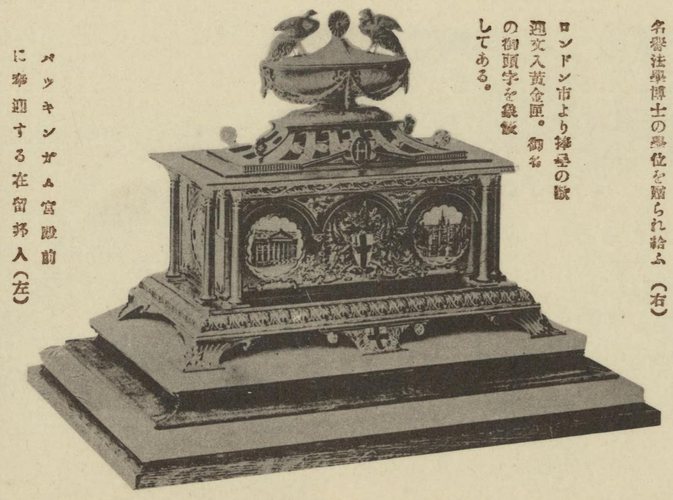
五月九日ホワイトホールの世界大戰戰死者記念塔に花環を捧げ御拜禮遊ばさるゝ殿下。



五月九日ビクトリア停車場より英皇と御同乘バッキンガム宮殿に向はせらる



バッキンガム宮殿前に奉迎する在留邦人（左）



ロンドン市より拜受の獻迎文入黃金匣。御名の御頭字を象嵌してある。

五月十八日ケンブリッヂ大學より名譽法學博士の學位を贈られ給ふ（右）

大正十年五月九日午後一時バッキンガム宮殿に御到着あるやの月御の間にて皇后及びメーリー内親王殿下と面對あり、次いで正式に大正天皇よりの御親書御贈物等を陛下を御通あり啓上に殿宮ムガンキツバ再時五後午後の訪歷御院寺ータスンミトスエカ、塔念記者戰死にルーホトイワ訪御下陛ラドンサキレアレ后太皇後皇ムガンキツバ間あり、十日は日ウインゾルツ宮にたれ。さは交を杯乾に互と王英と下殿王親内ーリメ及び

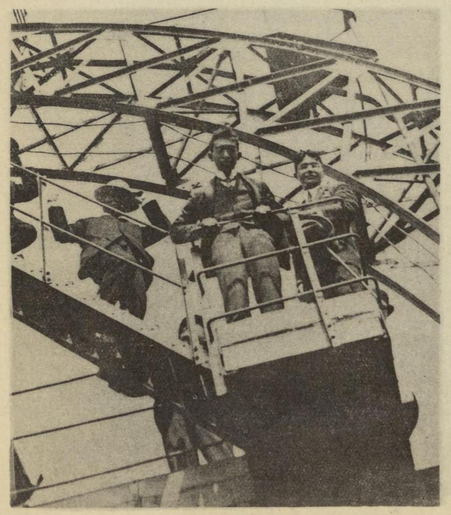
夜は英皇室正式の御招宴を宮殿舞踏室にて開かれ王と英皇室歷代の御墓陵御參拜あり夜は外相カーゾンの御迎賓の晩餐にて御陛下を給せられ成にイエツリコ劇場に

東宮殿下の御外遊（五）

ヘンレー飛行場御訪問（五月十六日）

首相ロイドジョージ氏別邸御訪問（五月十五日）

エデンバラ古城を訪はせ給ふ（五月十九日）



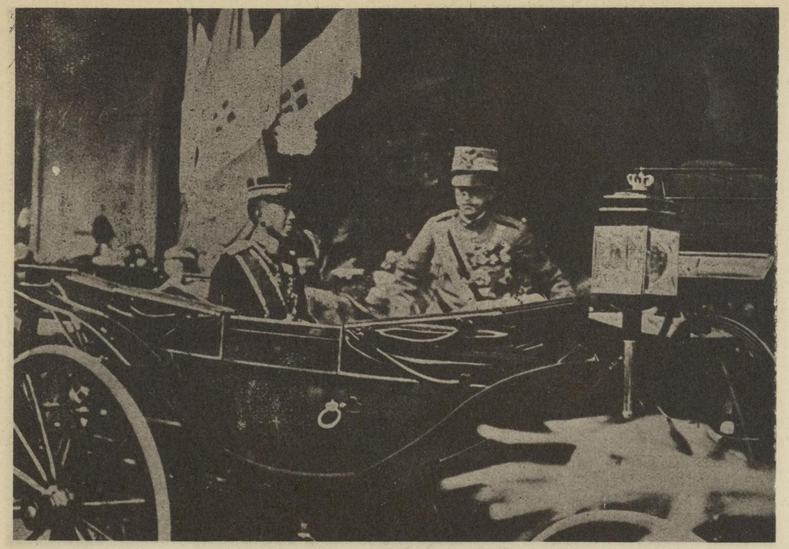
ブラツセルル博物館御巡覽右端はベルギー皇帝陛下（六月十一日）

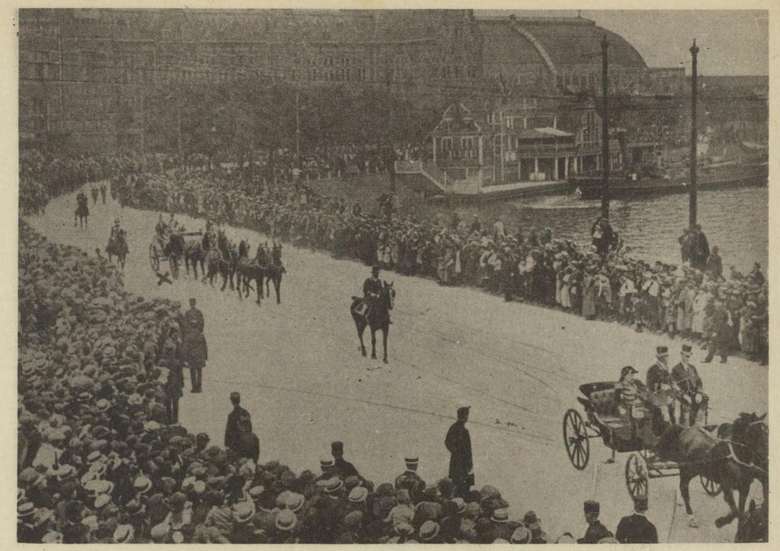
リエーヂュ戰跡御視察（六月十三日）

エッフエル塔御遊覽（六月二日）

五月十四日オツクスフオード大學を訪問遊ばされ十五日にはロイド・ジョーヂ氏官邸別邸（チエツカース在）に成らせられて牛津を過ぎ、十六日ヘンレー飛行場にて壯快なるアエロプラン義耳白日十月六、出御へ佛蘭西國英吉利海峡を渡り、五月十九日コンコルドにて御巡遊、五月廿九日大統領御訪問、六月一日ダルシーヨットにて御即位、五月十七日オルガンを聴御、翌十七日はエディンバラ古城を訪はせ給ふ、同市より河を遡航御遊船にて盛儀なりしエッフエル塔御遊覽、十四日にはブラツセルに御上陸、十三日リエーヂュ戰跡を御視察、十六日ヘンレー飛行場御訪問あり、十七日ダンケルクに向け出發。

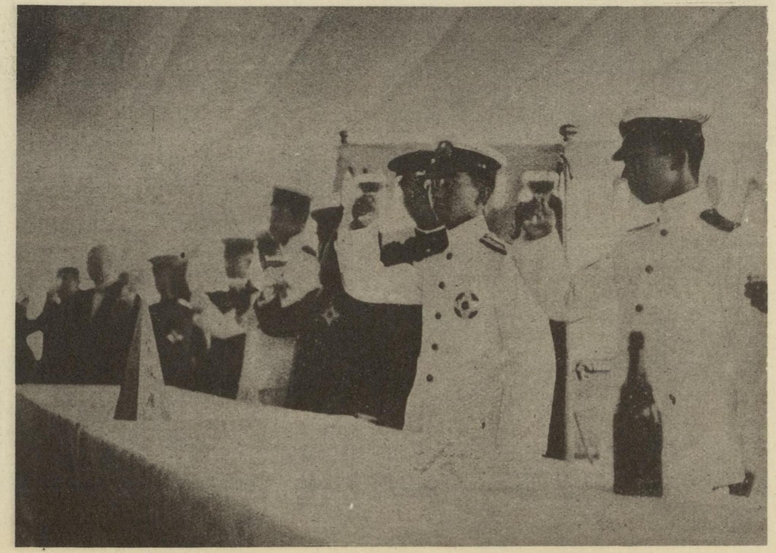
東宮殿下の御外遊（六）



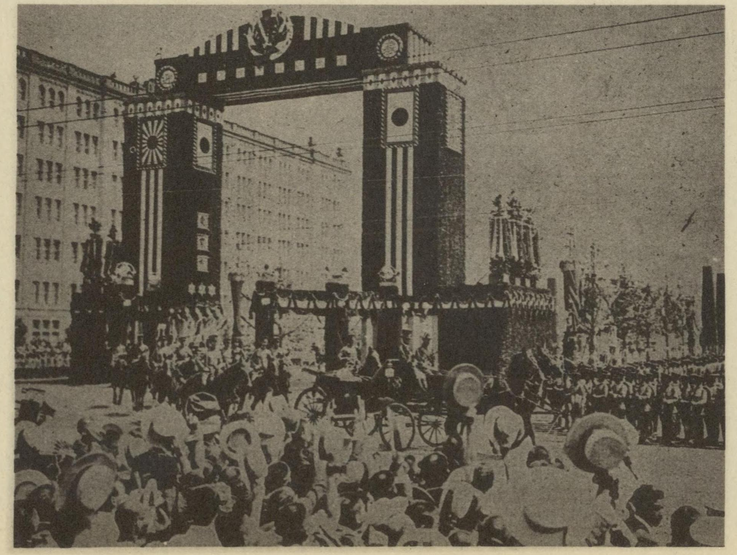


（右）オランダ國アムステルダムに御着、王宮に赴かせらるゝ陛下（六月十五日）

（左）ローマ御着の殿下エマヌエル三世陛下と御同乗キリナーレ宮殿に向はせらるゝ殿下（七月十二日）



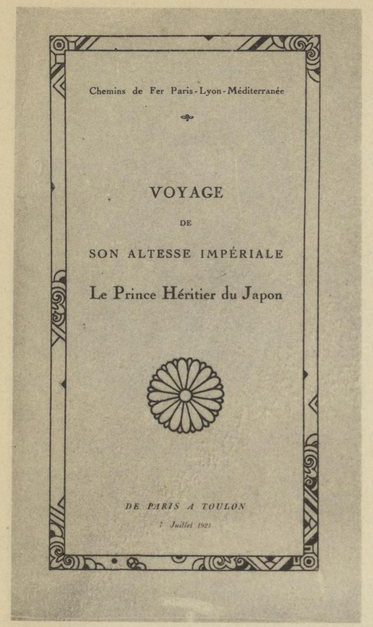
（左）横濱御安着香取艦上にて乾杯遊ばさるゝ殿下右より高松宮、東宮殿下（今上陛下）淳宮閑院宮の各殿下（九月三日）



（右）萬歳聲裡に東京に御還啓九月三日此日始めて萬歳を唱ふる事と御寫眞を拜寫する事を許された。

六月十五日午後五時オランダのアムステルダムに御着直ちに王宮に向はせられ女王ヰルヘルミナ女王と御對面あり、二十二日和蘭發巴里を經て七月八日ローマ軍港より御乘艦、十一日ナポリに御入港十二日ローマ御着各地御巡遊の後十九日ネーブルスルブ一發出發一路日本へ向はせられ九月三日午歳に渉る御旅程を終らせ給ひ、横濱より東京御所迄沿道を埋むる赤子の怒濤の如き萬歳の聲に送られ給ひつゝ無事御歸京になつた。御歸朝に際して從來禁止であつたる萬歳を唱ふる事や不敬に渉らざる限り當日限りで個人の寫眞器にて御英姿を拜寫する事等を許可されたのは宮内省の英斷として大好評であつた。

東宮殿下の御外遊（七）



Chemins de Fer Paris-Lyon-Méditerranée

VOYAGE

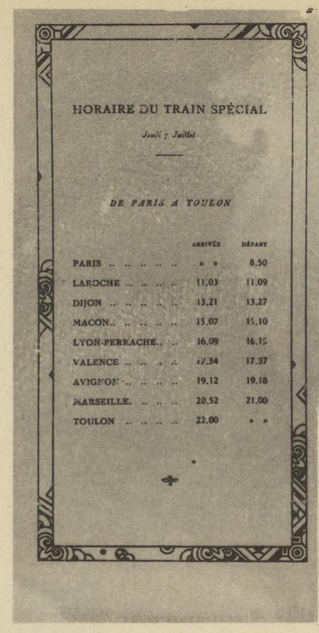
DE

SON ALTESSE IMPÉRIALE

Le Prince Héritier du Japon

DE PARIS A TOULON

7 Juillet 1921

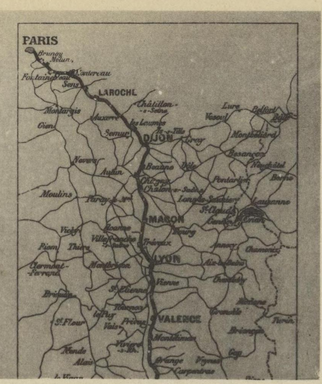


HORAIRE DU TRAIN SPÉCIAL

Jeudi 7 Juillet

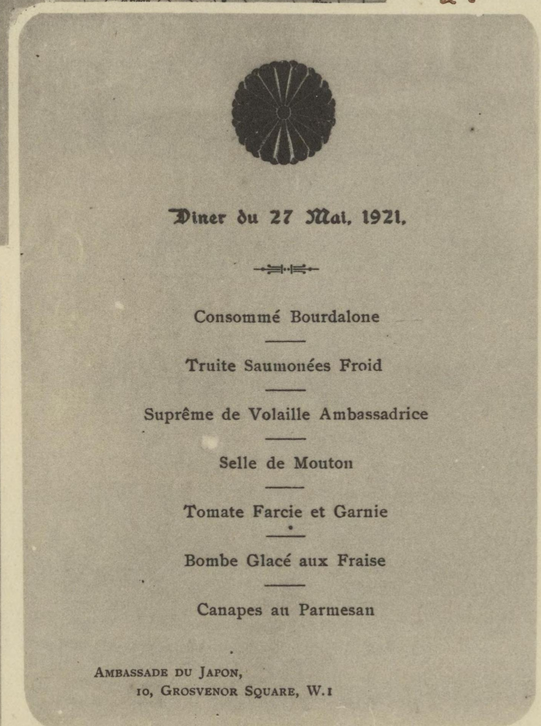
DE PARIS A TOULON

	ARRIVÉE	DÉPART
PARIS	» »	8.50
LAROCHE	11.03	11.09
DIJON	13.21	13.27
MACON	15.07	15.10
LYON-PERRACHE	16.09	16.15
VALENCE	17.34	17.37
AVIGNON	19.12	19.18
MARSEILLE	20.52	21.00
TOULON	22.00	» »



パリーよりツーロンに至る御日程表

右側は地圖と御發着の時刻表で二十四時間制で『午前』『午後』の別がない。左端は御日程表の表紙で金と黑との二色刷である。



Diner du 27 Mai, 1921.

Consommé Bourdalone

Truite Saumonées Froid

Suprême de Volaille Ambassadrice

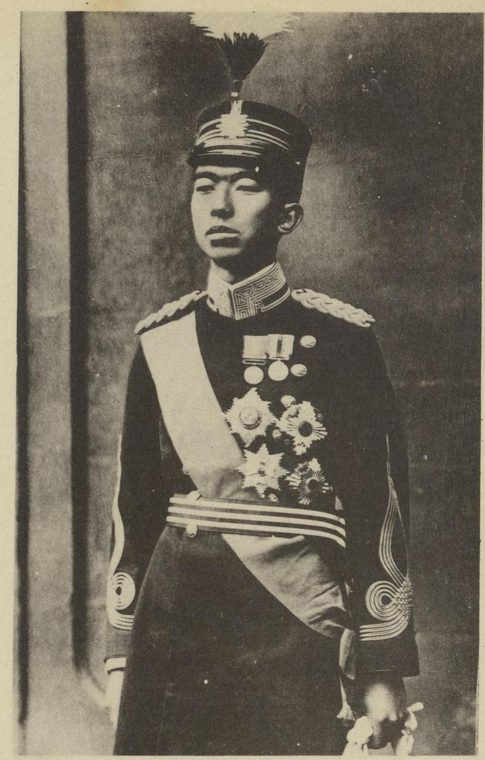
Selle de Mouton

Tomate Farcie et Garnie

Bombe Glacé aux Fraise

Canapes au Parmesan

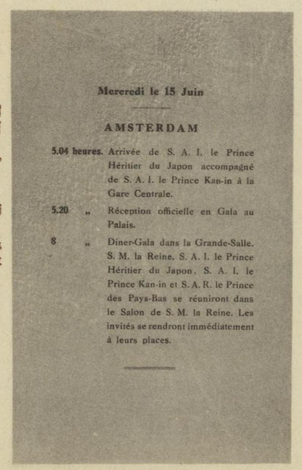
AMBASSADE DU JAPON,
10, GROSVENOR SQUARE, W.1



バス勳章御佩用の東宮殿下

英皇より御贈進ありたるバス勳章御佩用の御英姿（英國にて御撮影の御寫眞）

左、駐英大使主催の奉迎晩餐會の獻立表



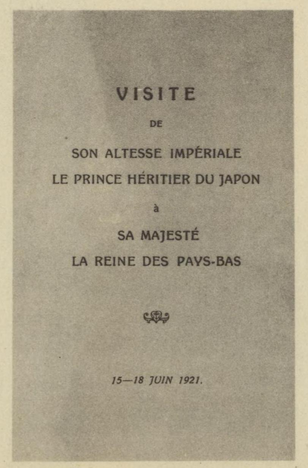
Mercredi le 15 Juin

AMSTERDAM

5.04 heures. Arrivée de S. A. I. le Prince Héritier du Japon accompagné de S. A. I. le Prince Kan-in à la Gare Centrale.

5.20 „ Réception officielle en Gala au Palais.

8 „ Dîner-Gala dans la Grande-Salle. S. M. la Reine, S. A. I. le Prince Héritier du Japon, S. A. I. le Prince Kan-in et S. A. R. le Prince des Pays-Bas se réuniront dans le Salon de S. M. la Reine. Les invités se rendront immédiatement à leurs places.



VISITE

DE

SON ALTESSE IMPÉRIALE

LE PRINCE HÉRITIER DU JAPON

à

SA MAJESTÉ

LA REINE DES PAYS-BAS

15—18 JUIN 1921.

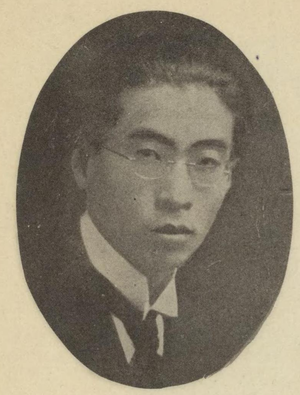
和蘭に於ける御日程表

右は御日程表の表紙で左は御日程の順序書の第一頁である。

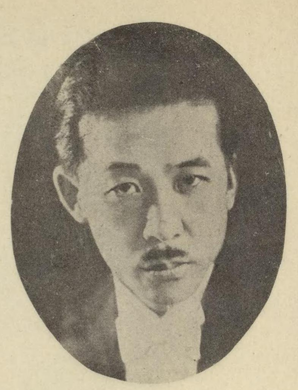
東宮御外遊中洋服類は倫敦ロンドンのヘンリー・ブールバード社が御用を命ぜられ御用命を仰付けられたるトーコスレ二著、ダイニングニ著、ブロクロニ著、モーニングニ著、背廣二著、ナーグアコート二著で一著當時百五十圓（廿磅）陸軍御服は廿磅と拜承、全部五月八日ビスツトツヘルツ沖停泊中代表者が御召艦に何れも玉虫色に仕上げたるものである。

又御旅行に用いたるトーマス・クック・エンド・サン會社が御用命を仰付けられたるものである。

大正年間の著名なる音樂家



作曲及び指揮者
近衛秀麿氏



作曲及び指揮者
山田耕作氏

ピアノ。久野久子女史

上、三浦環女史
大正七年十一月八日米國ニューヨークに於ける米國女流音樂家招待會に於ける女史

右、ヴイオリン。幸田延子女史

大正十四年四月二十五日歌舞伎座にて開催の日露交驩大管絃樂會

ピアノ。小倉末子女史

映畫界最古の俳優尾上松之助

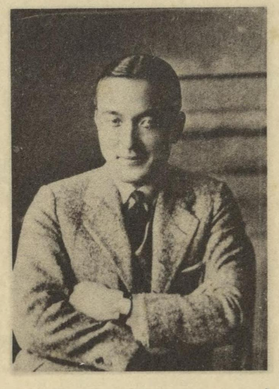
『櫻井櫻』演實助之松

大正十年十二月八日御茶の水教育博物館に開催中の活動寫眞覽觀會に尾上松之助一派は櫻井驛井櫻の別訣を上演し當時攝政宮に在ましましし聖上陛下の御覽を賜り映畫界未曾有の光榮に浴したる。

(下) 九十口諸

(上) 子ミス島栗

(下) 人草山上



(上) 洲雲川早

(下) 子米井酒

(上) 一嘉本山

『活映』がたつなに樣るれは行に世く廣らかてけつを前名ふ云と『眞寫動活』に『フラアトマネシ』が痴櫻地寫れさ入輸が械機るな『プーコスタイアザ』のンツザエは眞寫動活の國我くなも間がたし演出に是も子廣須井松で始がのたし入輸をのもの明發ンツザエが社會ンホトネキ本日は眞寫動活聲發。るあでらかてつ入に正大はのたつなに樣るれは行が稱名ふ云と竹松の日今てげ撰を模規がれ之れさ立設が社會式株眞寫動活色然天、得を無入てれさ入輸に年初の正大がのもの明發氏開スミス、ンバーアは眞寫動活色然天。たつましてれ潰が社會キネマ株式會社と りなと、明治末期の横田商會、寫實寫、會社ーテパM等社會の同合たしもの日本活動寫眞株式會社であ。る

名士のおもかげ

土方久元　田中光顯　渡邊千秋　波多野敬直　金子堅太郎

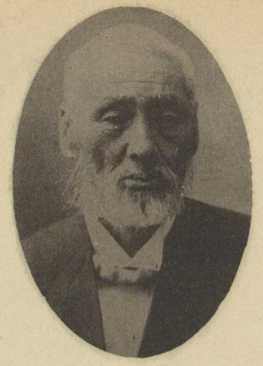
岡部長職　井上馨　青木周蔵　林董　大隈重信　辻新次

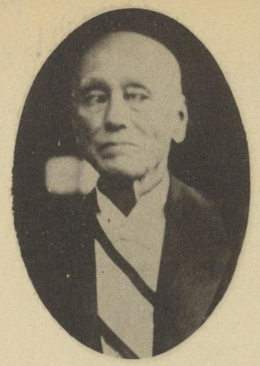
山尾庸三　佐野常民　野村靖　渡邊國武　井上毅

教育界の名士

新島襄

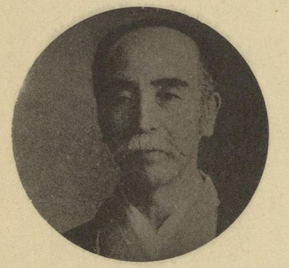
中村正直

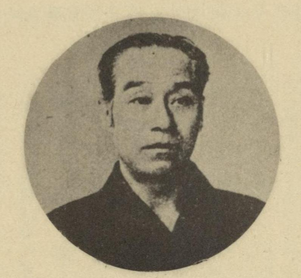

加藤弘之


山川健二郎

高田早苗

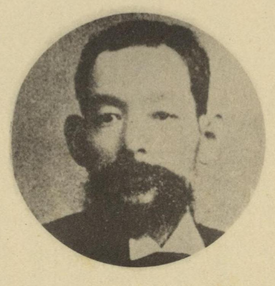
鎌原錬二郎


江原素六


鶴海鐵吉

梅謙二郎

岸本辰雄


宮井政章

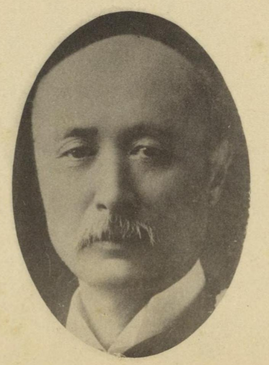
齋地大麓

加納治五郎

新渡戸稲造

杉浦重剛

濱尾新


佐藤昌介

岡野敬二郎

大正七年

八幡製鐵所疑獄事件

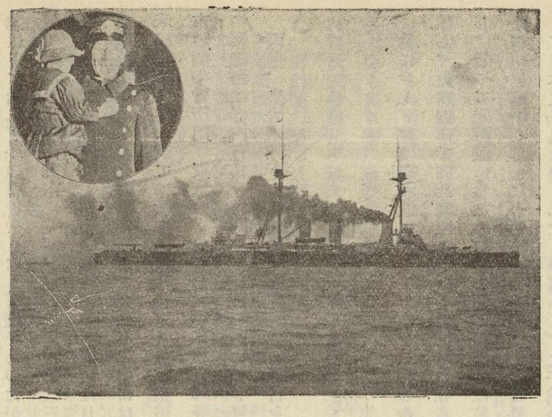
八幡製鐵所を始めとし、九州鐵道管理局、福岡鑛務署等に關する芳ばしからぬ兎角の說が行はれ、高級官吏以下及び人等に關係の商人に關する賄賂問題など頻りに傳へられたるが、製鐵所長官押川則吉は當時議會に於ける仲小路農相の態度に憤懣すとして、二月十三日口頭を以て辭意を述べ、爾來東京府下大崎長者丸の自邸に引籠りつゝあつたが、同月十八日午前九時自邸の湯殿に於て縊死を遂げた。原因は製鐵所の疑獄事件に關したものであるといふ越へて同月二十七日白仁武が製鐵所長官に任ぜられ特に親任官の待遇を賜ふた。而して翌月の三月六日に至り前記九州鐵道管理局、製鐵所、福岡鑛務署の高官、及商人等は賄賂受授事件の爲め檢擧されたのであつた。

製鐵所長官押川則吉

軍艦「河内」の爆沈

我海軍に於ける意義深く記念すべき最初の弩級戰艦たる「河内」は、周防國德山灣に碇泊中、七月十二日の午後三時五十七分、突然艦體中央部に爆發起り、僅に四分間にして全然沈沒し了つた。同艦は「攝津」の姉妹艦で、明治四十五年三月三十一日進水を了し、排水量二萬八百噸、馬力二萬五千馬力、速力二十節、主砲十二吋十二門、六吋十門、全長は五百呎、最大幅は八十四呎、吃水二十八呎で、横須賀海軍工廠に於て建造されたものである。原因は中央部に在りし重油槽が艦内の溫度變化と艦の動搖の爲め發火し火藥庫に燃え移りて爆沈するに至れるものであるといふ。當時この奇禍によつて殉死せる者は飯島機關長外六百十一名であつた。遭難の翌々日、十四日午後四時五十分吳海軍鎭守府にては、軍艦河内の爆沈に付き左の如く發表した。

十二日荒天の爲め航行行動を取止めて山口縣德山沖に碇泊中、午後五時三十分前部右舷に當り一大音響を發すると共に煙突附近に、恐ろしき黃煙を發し、僅か四分の後深水七尋の所に急傾斜を爲し、爆音と共に沈沒したり、此の慘憺たる刹那に當り乘組員一同は少しも狼狽せず、極めて沈着なる態度を以て應急處置に盡瘁し、總て上級者に對して、木片或は海中に浮びつゝある木材等を讓り合ひて救助に努め、上下整然として事に當りたり、午後四時頃に至り吳鎭守府よりは潛水夫及之に關する器具等を救助船に乘せて遭難地に急航せしめたり、而して十三日午後十一時重輕傷者八十一名を以て海軍病院に收容したるが、此内重傷者五十九名、輕傷者二十六名なり、其後續々として屍體は發見されつゝあり、又十四日午前吳海軍病院に入院したるものゝ中よりも七名の死亡者を出せり、一方吳軍港に於ては鎭守府及海兵團員を以て多數の葬儀委員を設けて之が準備を爲しつゝあり、又畏くも陛下には四竈侍從武官及び東宮武官を態々吳海軍鎭守府に御差遣相成り兩武官は海軍病院に臨みて重傷者を見舞ひ御菓子料を傳達せられたり。越へて同月二十一日午後一時、前記艦長外六百十三名の海軍葬は吳海兵團練兵場に於て執行された。」



佐大大太義木正長艦と艦内河せる沈爆

英國コンノート殿下御來朝

六月十八日英國皇甥アーサー・オブ・コンノート殿下は、日本天皇陛下に元帥杖棒呈の御使命を奉ぜられて御來朝、此日東京驛に御着あり、大正天皇には同驛に出御御出迎へあらせられた。斯くて翌十九日コンノート殿下には宮中に參内、大正天皇に元帥杖を棒呈あらせられた。是より先、此年一月二日英國皇帝陛下より、我が天皇陛下に、英國元帥の班位に列せられんことを冀ひ給へる御親電あり、大正天皇には右御親電に對する御答電と共に、英國皇帝陛下に、日本元帥の稱號を贈進あらせられた。這回のコンノート殿下の御來朝は

蓋し之に基くものであることは言ふ迄も無い。斯くして日英兩帝國は益々親密の度を加へたのである。

富山外五縣下の米騒動

七年後半期に入りて米價は漸次騰貴を繼續し一升二十五錢より四十五錢に激騰し、之が爲め各地に不穩の叫びを擧ぐるに至つたが、八月六日富山縣滑川町にては、同町漁夫の女房達の一團によつて米騒動勃發し市中の米屋を襲擊したるが、日を經るに從つて勢力益々加はり、殆んど手の付けやうなき有樣であつたが、此の勃發が誘因となつて、高松市、岡山市、堺市等に同樣の騒動興り、次いで名古屋、京都、大阪の三市に及び、更に兵庫、備後三須に波及し、之れが爲め遂に軍隊の出動を見るに至り、尙同月十二日には豐橋市、十三日には東京市内にも亦勃發し市内の米商店は日沒頃より軒燈を消し堅く戸を閉鎖して、襲擊團の殺到を避くる狀態であつた。斯くして米騒動は殆んど全國の各都市に蔓延し、中には燒打、殺人、强盜なども行はれ頗る危險性を帶ぶるに至つたのであつた。以上各地の米騒動の原因に就ては敢て一樣ならざるも東京市の如きは米商の買占に基因せる米價の暴騰に在るものゝ如く、當時農商務省にては津市の岡半右衛門、東京の岩崎清七、小其藤五郎等に對して買占に關して警告を與ふる所があつた。又政友會にては八月十日元田、野田の兩總務は寺内首相を訪問して米價問題につき警告する所があり、井上東京府知事は同月十二日より朝鮮米廉賣を決定した。

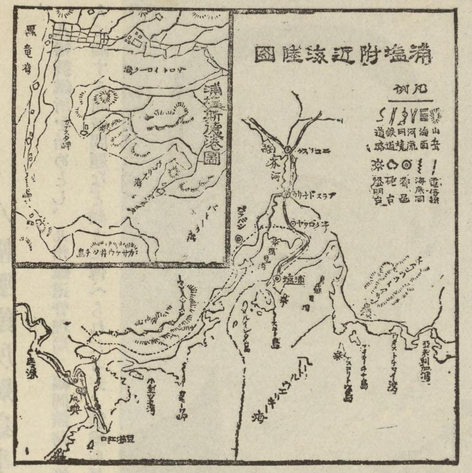
天皇、皇后兩陛下には人民困厄御賑恤の思召を以て御内努金三百萬圓を下賜あらせられた。

日本軍艦陸戰隊の浦鹽上陸

曩にレーニンの過激派によつて革命を敢行せる露國は遂に同派によつて其政權を掌握したるが、同派の過激思想は全歐洲に勢力を扶植し、更に進んで西比利亞に發展し、同地に在る獨墺の俘虜中、九萬五千人は露國の革命勃發後は無監視の狀態に置かれたるを奇貨とし、起つて過激派に參加したので同派の勢力は愈ゝ增大となり、爲めに東洋の保安は頗る脅威さるゝに至り、延いて日本の西泊利出兵は痛切を感ずる事となつた。一方浦鹽に於ける秩序は甚だしく紊亂し危險は日一日と加り、折りしも同地の日本商店は暴徒の襲擊を蒙りて日本人三名殺傷されたる椿事あり。之が爲め豫て警備の任を以て同港に在泊せる日本軍艦は同胞保護の爲め、直ちに陸戰隊を上陸せしめて機宜の處置を採る事となつた。同時に英國軍艦も亦陸戰隊を上陸せしめた。其の上陸宣言は左の如くである。

陸戰隊上陸宣言

『日本司令官は聯合與國と共に露國現下の國情に深甚なる同情を寄せ速に此の國難を驅除せんことを希望して止まざる所なり故に露國の内政に干與し政派の一方に對して不自然なる援助又は威壓を加ふる如きは徒らに露國々運の進展を阻害し國民の理性に從ふ適當の歸結を得ざらしむるものとして絶對に此の如き行動を取るを避け隱忍以て今日に至れり然るに近時當地の政爭益々激甚となり其極遂に擾亂の勃發を免るゝ能はざるに至らん事を深憂し而して今や市中の保安に任ずる必要機關の紊亂に伴ひ市中に秩序なく殆んど無警察に類するの狀態に陷れるを見、密かに在留日本帝國及聯合與國臣民の生命財産に就き危險の念なきを得ざりき不幸にして今回圖らずも日本人民三名の殺害事件の發生せるは日本司令官をして自己の責任を以て日本帝國臣民の生命財産の保護に任ぜざるべからざるに至らしめたり依て日本司令官は其の麾下の陸戰隊を揚陸し自ら適當と認むる措置を執ると共に今後の處置に付き本國政府に請訓中なりされども日本司令官の採りたる處置は單一に日本臣民の保護に存するを以て玆に重ねて日本司令官は露國政府及國民に對し敦厚なる友誼と同情との念切にして又他意あらざることを表白し露國臣民が何等の不安なく各々其堵に安んじ日常の如く各自の職業に從事せんことを希望するものなり。』



浦鹽附近海陸圖

浦鹽派遣軍の出發

斯くの如くにして浦鹽の形勢は極めて危險に逼まつたので我政府にては聯合與國との間に數回の交渉を重ねたる結果、相互意志の一致を見たるを以て八月一日愈ゝ玆に態度を決し、翌二日左の如く西伯利出兵を宣言した。

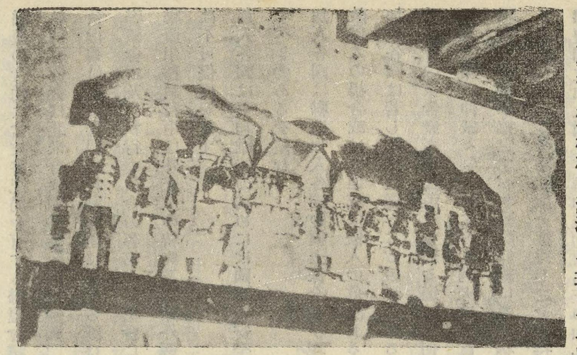
『西伯利出兵宣言書

帝國政府ハ露國並露國人民ニ對スル舊來ノ隣誼ヲ重ンシ露國ノ速ニ秩序ヲ恢復シテ健全ナル發達ヲ遂ケンコトヲ衷心切望シテ止マサル所ナリ然ルニ近時露國ノ政情著シク混亂ニ陷リ復タ外迫ヲ防禦スルノ力ナキニ乘ジ中歐諸國ハ之ニ壓迫ヲ加フルコト愈々甚シク其

ノ威壓遠ク極東露領ニ浸漸シテ現ニチエツク・スローヴアツク軍ノ東進ヲ阻碍シ其軍隊中ニハ多數ノ獨墺俘虜混入シ實際ニ於テ其ノ指揮權ヲ掌握スルノ事跡顯然タルモノアリ、抑モチエツク・スローヴアツク軍ハ夙ニ建國ノ宿志ヲ抱キ終始聯合列强ト共同對敵スルモノナルガ故ニ其安危ノ繫ル所延テ興國ニ影響スルコト尠シトセス是レ聯合列强及合衆國政府ガ同軍ニ對シ多大ノ同情ヲ寄與スル所以ナリ今ヤ聯合列强ハ同軍ガ西伯利方面ニ於テ獨墺俘虜ノ爲メ著シク迫害ヲ被ムルノ報ニ接シ宜シク拱手傍觀スルコト能ハス業ニ已ニ其兵員ヲ浦鹽ニ派遣シタリ合衆國政府モ亦同シク其ノ危急ヲ認メ帝國政府ニ提議シテ先ツ速ニ救援ノ軍隊ヲ派遣センコトヲ以テセリ是ニ於テ帝國政府ハ合衆國政府ノ提議ニ應シテ其ノ友好ニ酬ヒ且今次ノ派兵ニ於テ聯合列强ニ對シ歩武ヲ齊フシテ履信ノ實ヲ擧クル爲メ速ニ軍旅ヲ整備シ先ツ之ヲ浦鹽ニ派遣セムトス叙上ノ措置ヲ取ルニ方リ帝國政府ハ一意露國及露國人民ト恒久ノ友好關係ヲ更新センコトヲ希圖スルヲ以テ常ニ同國ノ領土保全ヲ尊重シ併セテ其ノ國內政策ニ干涉セサルノ既定主義ヲ聲明スルト共ニ所期ノ目的ヲ達成スルニ於テハ政治的又ハ軍事的ニ其ノ主權ヲ侵害スルコトナク速ニ撤兵スベキコトヲ玆ニ宣言ス。

大正七年八月二日

各大臣連署」



ニコリスク兵會內の反日ボスタ一

斯くて我が第十二師團先頭輸送團は同月十一日浦鹽に上陸した。而して我浦鹽派遣軍司令部は左の如く編成されたのであつた。

浦鹽派遣軍司令官陸軍大將大谷喜久藏、同參謀長陸軍中將由比光衛、同司令部附陸軍中將武內徹、同參謀陸軍少將中島正武、同陸軍少將稻垣三郎、同步兵大佐林彌三吉、同砲兵中佐阿部十寸穗、步兵少佐加納重之、同長谷部照信、同河本大作、騎兵少佐蓮沼蕃、步兵大尉藤岡萬藏、騎兵大尉土屋義幹、浦鹽派遣軍副官步兵大佐矢部邦太郎、同步兵少佐中山隆策、同廣良一、步兵大尉德永乾重、步兵中尉佐伯寅秀。

軍司令部一行は八月十二日東京驛を發して十七日浦鹽に着した。斯くて大谷大將は聯合各軍代表武官と總指揮問題に就て協議の上、大谷大將は西伯利聯合軍總司令官に推された。

爾後日本軍は機敏なる活動の下に九月四日騎兵隊はハバロフスク市を占領し、同六日には騎兵の一部はチタに進入し、次で同十八日アレキセーフスク、ブラゴヴエツチエンスクを占領した。

寺內內閣の總辭職・原內閣出現

寺內首相は來るべき議會の圓滑を圖る爲め、九月四日貴族院に於ける淸和、新政兩會の合同を策したるも不調に終り、其他種々の思はしからぬ情勢に鑑み決意する所あつて、同月十七日閣議の席上に於て辭意を表明したるが、越へて二十一日參內して辭表を捧呈し、各大臣も亦首相に辭表を提出したのであつた。此日大命は西園寺侯に降下したるも侯は四月二十五日に至り拜辭したので、越へて二十八日政友會總裁原敬は參內して、內閣組織の大命を拜受し退下後、直ちに組閣に着手し、閣員を決定し、翌二十九日親任式は擧行された、同內閣の顏觸は左の如くである。

內閣總理大臣原敬、外務大臣子爵內田康哉、內務大臣床次竹二郎、大藏大臣男爵高橋是淸、陸軍大臣陸軍中將田中義一、海軍大臣海軍大將加藤友三郎、文部大臣中橋德五郎、司法大臣(兼任)原敬、農商務大臣山本達雄、遞信大臣野田卯太郎、內閣書記官長高橋光威

東伏見宮殿下御渡英

東伏見宮依仁親王殿下には、英國皇帝陛下に元帥佩刀并に元帥徽章御贈進の爲め遣英特使として九月二十八日御渡英、井上侯以下隨員と共に御着英あらせられ、二十九日バツキンガム宮殿に於て我が天皇陛下より英皇帝に御贈進の元帥章に添へる御親書を捧呈あらせられた。斯くて東伏見宮殿下には御使命を全うせられて翌八年一月七日サイベリヤ丸にて御歸朝直ちに御參內御復命あらせられた。

大正八年

スペイン感冒流行す

昨七年の十二月以來流行し始めたる流行性感冒は、俗に西班牙感冒と稱せられたるが、日を經るに從ひ、其の勢ひ頗る盛んにして全國各地に蔓延し、益々猖獗を極め、僅に二ヶ月間に於て東京府下のみにても千三百名の死亡者を出した。之が爲めに各病院は入院患者滿員の狀態を示し、市中の各葬儀社は棺の製造が間に合ひ兼ぬるの情況を呈したのであつた。スペイン感冒の原因は大戰中の塹壕內に發生せる惡性感冒が戰後流行したものだと云はれて居る。

李太王薨去と朝鮮の不穩

朝鮮李太王殿下には八年一月二十二日薨去遊ばされ越へて三月一日殿下の國葬の儀を執行あらせられた。此日賜謚の儀があり、翌二日斂葬前柩前祭あり、其翌三日には靈輿發引の儀があり、四日の夜より五日の朝に亘りて御埋葬の儀、六日斂葬の後、權令祭の儀があり、七日斂葬後に於て墓所祭の儀を執行された。然るに此の日京城に於て李太王殿下の國葬儀執行を機として不穩の徒騷擾せんとするの形勢があつたので、其筋にては夙くも之を察知し、其首魁たる孫秉熙以下百六十名を檢擧した。越へて二十四日東京にても亦在京朝鮮學生等青年會館に會合して不穩の暴議を爲したるため、是等二十一名は直ちに引致された。而して朝鮮にては故李太王殿下の國葬以來引續き各地に鮮人の大示威運動行はれ、次で是等の運動が暴動と化し全道擾亂の巷となつたが六月に入りて漸く鎭靜した。

日本委員國際聯盟原則に贊成す

佛國ヴェルサイユに開かれたる媾和會議に於て出席の我が全權委員は、二月六日、日本民族に對する移民制限の全部撤廢を條件として國際聯盟原則に贊成した。

因に、國際聯盟規約は米國大統領ウヰルソン氏が媾和條約の一部たらしめんとして一九一九年一月英國倫敦に赴き其達成に就て言明し、又英國のロバート・セシル卿は國際聯盟委員として同規約組織決定の旨を發表した。次で一月二十五日媾和全權會議に於て其決議案を可決して其草案を發表したのであつた。而して列强國の國際聯盟委員は左の諸氏が決定した。

米國大統領ウヰルソン氏、ハウス大佐。英國ロバート・セシル卿、スマツツ將軍。佛國レオン・ブルジオア氏、ラルマウド氏。伊國ナルランド氏、ウイテリオ・スキアロアイア氏。日本珍田子爵、落合謙太郎氏。

該國際聯盟規約は全部二十六條より成り。加入脫退、領土保全、仲裁裁判、爭議處理、破約制裁、爭議と勸告、條約登錄、委任統治國際勞働保護、既設機關、修正と讃否、追加規定の諸項に分たれてある。左に其の要綱を揭ぐ。

『國際聯盟規約要綱

國際間の紛議は之を干戈に訴へて解決せんとせざるべしとの義務を承認し各國間の公明正大にして名譽ある關係を規定し各國政府の行爲に對する實際上の規則として國際法の協定を確立し聯盟各國間の凡ての條約義務に關し正義と嚴正なる尊重とを保持し以て國際相互の協調を緊密にし且つ國際間の平和と安全とを確立せんが爲め聯盟各國は當國際聯盟規約に同意す。

國際聯盟は當規約追加規定に署名の各國及無條件を以て當規約を承認すべきものとして右追加規定に指名されたる各國を以て其創立加入國とす。

聯盟の行動は常設書記局を有する聯盟會議及執行委員會を通じて執行さるべきものとす。

執行委員會は北米合衆國、英帝國、佛國、伊國及日本及び他に加入列國四個國の代表者を以て組織す。

執行委員會は聯盟の行動範圍に屬する或は世界の平和に影響する諸問題を討議す。

聯盟會議及び執行委員會の各第一回集會に米國大統領之を召集す、聯盟本部は之をゼネバに置く、加入各國の代表者及び聯盟役員は聯盟用務執行中は外交上の特典及び除外例に浴し聯盟或は聯盟役員或は會議列席中の加入國代表者により使用さるゝ建物其他の財產は不可侵權を有す。

加入各國は平和維持の爲めには國家の安全に適應すべき程度に於て國防を最少限度に縮小し共同行爲により國際上の義務遂行を强制すべき要あるを望む。

加入各國は聯盟加入各國の領土保全及び現存政治的獨立を尊重し外敵の侵入に對抗して之を保有せしむべき途を講ず、斯くの如き外敵侵入の場合或は脅迫或は侵入の危險有る場合執行委員會は聯盟の義務遂行の爲め其執るべき方法を獻策す。

加入各國は若し國交斷絕となるの恐れある紛爭の發生したる時は仲裁々判或は執行委員會の審議に付し且つ仲裁々判の判決或は執行委員會の報告發表後三箇月を經る迄は如何なる事情ありとも戰爭を開始せざる事を協議す。

加入各國は仲裁々判の下すべき判決は誠實完全に之を履行すべき事及び右判決に服從したる加入國に對しては開戰せざる事を協諾す

現存及び將來協定すべき國際條約に遵ひ聯盟加入國は自國及び通商產業上の關係を延張接觸する總ての國の男女小兒に對し公平にして人道に協へる勞働狀態を獲得し之を維持するに努力し此目的の爲めに必要なる國際機關を設置且維持すべし。

聯盟創立加入國及び媾和條約署名左の如し。

北米合衆國、白耳義、ボルヴィア、伯立爾（ブラジル）、英帝國、加奈陀、濠洲、南亞弗利加、南ウエールス、印度、支那、玖瑪（キューバ）、チエック・スロヴアツク、エクアドル、佛國、希臘、グアテマラ、ヘイチ、ヘヂヤズ、ホンヂユラス、伊國、日本、リベリア、ニカラガ、巴奈馬（パナマ）、秘露（ペルー）、波西（ポルトガル）、葡萄牙、羅馬尼（ルーマニヤ）、塞爾維（セルビヤ）、暹羅、ウルゲー。

尙當規約を承諾すべく勸誘されたる國家左の如し。

亞拉然（アルゼンチン）丁共和國、智利（チリー）、哥倫比亞（コロンビヤ）、丁抹（デンマーク）、ネザランド、那威（ノールウエー）、パラグエー、波斯（ペルシヤ）、サルヴエドア、西班牙、瑞典、瑞西、ヴエネジユラ。

東宮殿下御成年式

東宮裕仁親王殿下には五月七日宮中に於て御成年式の大儀典を擧げさせ給ふた。東宮御成年式は去る明治四十二年二月に皇室令第四號皇室成年令の發布せられて以來、始めての御儀式である。當日東宮殿下には第一公式鹵薄にて參內され、賢所御前に於て朝見式の賀宴ありて後、大正天皇より華冠を賜ふた。而して同夜は宮中豐明殿に於て文武百官を召されて盛大なる饗宴の御催しがあつた。尙貴衆兩院及び東京其他より賀表を棒呈した。又此日東京市にては御成年式奉祝の爲め馬場先門前に莊嚴なる大綠門を建設して奉祝の意を表した。又數箇を凝らした花電車を終日運轉し盛なる祝賀を催して滿都は非常な賑ひを呈した。

因に、明治四十二年二月十一日官報號外を以て發せられた、皇室令（第四號）を左に摘錄す。

皇室成年式令

第二章　皇族成年式

第九條　皇太子、皇太孫、親王、王、成年ニ達シタル時ハ其當日附式ノ定メタル所ニ依リ賢所大前ニ於テ成年式ヲ行フ但シ事故アル時ハ勅許ヲ經テ其期日ヲ延ブル事ヲ得

第十條　皇太子、皇太孫、成年式ヲ行フ當日之ヲ賢所皇靈殿ニ奉告ス

第十一條　皇太子、皇太孫、親王、王、成年式を訖りたる時は天皇、皇后、皇太后ニ朝見ス

第十二條　皇太子皇太孫ノ成年式ニハ第二條第五條及第八條ノ規定ヲ準用ス云々

（第一條　期日ハ宮內大臣之ヲ公告ス。第五條　成年式ノ訖リタル時ハ皇靈殿ニ謁ス。第八條　式ヲ訖リタル時宮中ニ於テ饗宴ヲ賜フ）

第二編　皇太子成年式

賢所皇靈殿神殿ニ奉告ノ儀

當日早旦御殿ヲ裝飾ス

時刻宮內省高等官著床ス次ニ御扉ヲ開ク（此間神樂歌ヲ奏ス）次ニ神饌ヲ供ス（此間同上）次ニ掌典長祝詞ヲ奏ス次ニ皇太子代拜（東宮侍從奉仕衣冠單）次ニ諸員拜禮次ニ神饌ヲ撤ス（此間神樂歌ヲ奏す）次ニ御扉ヲ閉ヅ（此間神樂歌ヲ奏ス）次ニ各退下ス

賢所大前ノ儀

時刻文武官有爵者優遇者及外國交際官廟集所ニ參集ス

次ニ皇太子綾綺殿ニ參入ス次ニ天皇綾綺殿ニ渡御　次ニ天皇ニ御服（御束帶黃櫨染御袍）ヲ供ス（侍從奉仕）次ニ天皇ニ手水ヲ供ス（同上）次ニ天皇ニ御笏ヲ供ス次ニ皇太子ニ手水ヲ供ス、次ニ皇太子ニ笏ヲ供ス、此間供奉諸員服裝ヲ賜フ（衣冠單）次ニ式部官前導諸員參進本位ニ就ク次ニ御扉ヲ開ク（此間神樂歌ヲ奏ス）次ニ神饌幣物ヲ供ス（此間同上）次ニ掌典長祝詞ヲ奏ス次ニ出御

式部長官宮內大臣前行シ侍從劍璽ヲ奉ジ侍從長、侍從、侍從武官長、侍從武官御後ニ候シ、親王、王、供奉ス

次ニ外陣ノ御座ニ着御侍從劍璽ヲ奉ジ簀子ニ候ス次ニ皇太子參進次ニ東宮侍從壺切御劍ヲ奉ジ東宮侍從長東宮武官長東宮武官後ニ候ス

次ニ天皇冠ヲ皇太子ニ授ク（掌典長奉持）皇太子外陣ノ座ニ着ク東京侍從壺切御劍ヲ奉ジ簀子ニ候ス次ニ掌典長賜冠ヲ皇太子ニ加フ

次ニ天皇內陣ノ御座ニ進御次ニ御拜禮訖テ入御（供奉出御ノ時ノ如シ）次ニ皇太子拜禮告文ヲ奏ス次ニ皇太子退下（供奉參進ノ時如シ）

皇靈殿神殿ニ謁スルノ儀（賢所ト同ジ）

參內朝見ノ儀

時刻皇太子（正裝）參內

天皇皇后正殿ニ出御次ニ式部長官前導皇太子御前ニ參進恩ヲ謝ス次ニ勅語アリ次ニ懿旨アリ次ニ皇太子御拔座ニ着ス次ニ御臺盤ヲ立

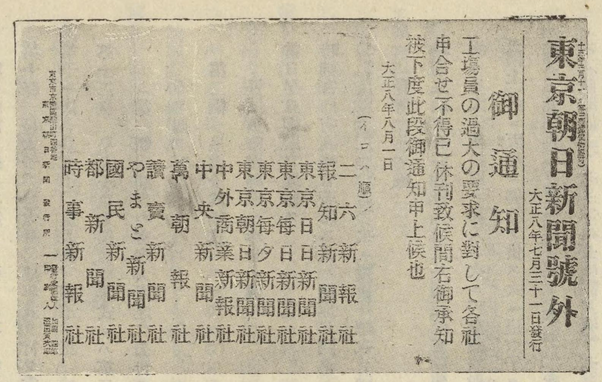
ツ次ニ御饌御酒ヲ供ス次ニ天皇皇后御盃ヲ皇太子ニ賜フ次ニ御箸ヲ立ツ次ニ天皇、皇后入御次ニ皇太子退下云々。

奠都五十年祝賀會

明治天皇帝都を東京に奠めさせ給ひしより、大正八年は宛も五十年に相當するので、東京市にては五月十日を期して奠都五十年祝賀會を上野公園に於て開催した。當時は大正天皇皇后兩陛下臨御あらせられ、又市中にては祝賀餘興として大名行列其他種々なる催しを爲し滿都は盛んなる祝賀氣分漲りて非常な賑ひを呈した。

因に、奠都五十年に關する種々なる興味ある記事が當時新聞雜誌等に記載されたが、大庭柯公氏の『奠都五十年』と題する一篇が東朝紙上に連載された。其中の一節を左に摘錄す。

『……日本橋の欄干の擬寶珠は縱し麒麟に代つたにしても江戸ッ兒の代表的擬人齊次郎兵衛の所謂お江戸日本橋は「天下の眞中」てふ感念は明治大正を通じての東京人の心裡にも依然存してをる。(中略)市街の外觀も市民の風俗も江戸と東京を通する三百年間に、少からぬ變化を呈しては居るが、兩國の煙花は依然として玉屋鍵屋を呼ばしめ、町内の錢湯は依然として朝湯に義太夫を唸らしめ、女湯に依然として褌一つの三助を跋扈せしめてをる。(中略)今の奥田市長は江戸の名奉行大岡越前守とまでは行くまいが、少くとも遠山左衛門尉位には當らう。江戸を東京に比して社會も人智も全く一大變化を呈したと觀察する者があるならば、そは餘りに新事物に眩惑された謗を免れぬ。お芝居の幕間にチュインガムを嚙んでゐる半玉共が、家で三味線のお稽古の隙に、蜜豆を平らげる今日の東京は、總ての點に於て新舊過渡の時代であらねばならぬ。云々。』



東京朝日新聞號外

大正八年七月三十一日發行

御通知

工場員の過大の要求に對して各社申合せ不得已休刊致候間右御承知被下度此段御通知申上候也

大正八年八月一日

(イロハ順)

二六新報社
知新聞社
東京日日新聞社
東京毎日新聞社
東京夕刊新聞社
東京朝日新聞社
中外商業新報社
中央新聞社
萬朝報社
讀賣新聞社
やまと新聞社
國民新聞社
都新聞社
時事新報社

休刊通知の號外(内田茂文氏藏)

東京市内各新聞社全部休刊

東京市内に於ける十六新聞社は各社活版部員の賃銀增給要求の結果、同盟罷業を斷行せるため遂に各社全部は休刊四日間に亘るの椿事を惹き起すに至つた。之れが爲めに市民は精神上の米の飯とも謂ふべき新聞に接するを得ずして、社會の耳目を失ひ、殆んど杖なき盲人が暗夜を探り歩むが如き感があつた。

世界平和の克復

四年間に亘り世界を擧げて戰塵に塗れしめたる世界大戰は曩に聯合國軍と獨逸國側との間に休戰條約締結され(前輯既載)されたるが次で六月二十八日午後三時より佛國ヴェルサイユ宮殿鏡の間に於て聯合國と獨逸との間に媾和條約は調印された。獨逸全權委員シューレル博士及びチール氏は二十七日夜ヴェルサイユに到着し翌二十八日の朝は信任狀の審査が行はれた。媾和條約は内容四百頁以上に亘るを以て到底朗讀すること能はざるゆゑ、佛國首相クレマンソー氏は媾和會議を代表し獨逸委員の調印に供する爲め、交付したる條約文は、先に媾和會議書記官デュクー氏に依て交付せられたるものと全然同一なる事を證明したる書簡を獨逸委員に送つた。調印の儀式中フォッシュ元帥は佛國委員の中に坐し、其他出席の知名の士の中には上下兩院委員若干名戰時内閣の首相四名即ちブリアン、リボーバブレーブ及びヴィウイアニ諸氏並にアルサス・ローレンの佛國浸高委員等があつた。獨逸の媾和條約承諾の通牒は頗る簡單にて僅に一頁に過きず、何等の保留をなさず條件を容認せるも、條件の過酷なるに抗議する所あつた。

該通牒の一部に曰く

『聯合國は武力によりて獨逸より媾和條件を、即ち獨逸民より何等の名譽を剝奪せんとの目的を有する條件の容認をすらなさしめんと決せるものの如し獨逸民は其の課せられたる條件を外部の行動によつて防禦するの途なし、優越なる權力に屈し、而かも未だ嘗て聞かざる不正に對する吾人の批判を開陳する事を放棄せずして獨逸政府は吾人に課せられたる條件を承諾し調印することを宣言するものなり。』

平和記念の大觀兵式と市中の祝賀

世界大戰の平和克復記念の大觀兵式は七月一日を以て代々木原頭に於て擧行せられた。此日大正天皇には、午前七時三十分宮城御出門、代々木ヶ原の觀兵式場に臨幸あらせ給ふた。朝霧深き原頭に三萬の貔貅は肅々として集まる、斯て近衛、第一兩師團の諸兵は場の南方に充滿して着御を待ち奉る。斯る間に原首相を始め國務大臣、親任官、陸海軍將星、各外國大公使及武官連續々入場す。八時東宮殿下御着あり、續いて八時二十分、鹵簿の着御を迎ふる嘹喨たる喇叭起り、飄翻として天皇旗只一騎玉車の御前行を承はる。軍樂隊の

「君ヶ代」奏樂裡に陛下は玉座に着御あらせられた。軈て此日の諸兵指揮官柴中將の奏請に依り陛下は再び玉車に召されて御閲兵に向はせらる。時正に八時四十分、御閲兵は玉座左方の近衞師團より始まる、玉車に隨ひ奉る元帥大將、外國武官團の最先頭には我が皇太子殿下英姿颯爽として御愛馬「和亭」の鞍上に跨らせ給ふ、東宮殿下の御閲兵は實に此日を以て最初とする。御閲兵了つて九時より分列式が行はれた。斯て式は午前十一時を以て終了し陛下には御機嫌麗しく還御あらせられた。

平和記念日商印

此日全國の寺院にては所謂平和の鐘に擬へ午前六時百八の慶鐘を一齊に鳴した。同日東京市中にては種々なる祝賀の催しが行はれた。東京市の祝賀會は午前中祝賀市會を開會し、正午帝國ホテルに於て祝宴を開いた。又各區役所にても午後四時より各樓上に祝賀會を開き區長以下名譽職參集して祝盃を擧げた。都下の大、中、小學校にても亦祝賀式を行ひ、媾和に關する講話があつた。午後七時から帝國ホテルに於て外人主催、參加隨意の舞踏會が開かれ、同時間に救世軍は炬火行列を爲し青山練兵場に於て同軍の義勇團員百數十名集まり大篝火を焚き煙花を打上げ萬歲三唱後提燈行列を行ふた。

此日また商業會議所、實業聯合會等も祝賀會を開き、夜に入りては實業各團體の提燈行列あり市内の各小學校では、旗行列を行ひ、其他日比谷公園、九段、永代橋上流、吾妻橋下流、湯島公園、青山練兵場、小石川久世山、芝赤羽造兵廠跡の各所に於て各數百發の煙花を打揚げ全市を擧げて平和祝賀の氣分が横溢したのであつた。

京城南大門驛頭の椿事

八月十二日朝鮮總督及び同政務總官更迭して總督には豫備海軍大將齋藤實、政務總監には法學博士水野練太郎任命され、九月二日新總督、新政務總監の一行は赴任し、同日午後五時十分京城南大門驛に到着し、官民多數の出迎裡に、齋藤總督は夫人秘書官と共に馬車に搭じて驛を出でたる刹那豫て群衆中に紛れ居たる二兇漢は突如總督を目蒐けて爆烈彈を投じたが、幸に總督馬車は數間を離れ居りたる爲め無事なりしも附近にありし各新聞社員數名は重傷を負ふた。兇漢の一名は直ちに捕へられたるが五十歲前後の鮮人であつた。尙同日午後六時一名の嫌疑者を南大門驛前にて逮捕し越へて同月十七日日本町署にて嫌疑者として咸鏡南道洪原郡姜燃丸（六十六）を捕へたるが取調の結果、同人は爆彈兇行の眞犯人なること判明して京城監獄に護送され、次で其後數回に亘り取調の結果、同人は總督暗殺の陰謀團を組織し、在京鮮人等と氣脈を通じ、根據を上海に設置し居り又爆彈は浦鹽の過激派の一人より買求めたとの事であつた。斯くて翌年二月に至り裁判決定して主謀者姜宇基（俗稱姜燃丸）は死刑、其他の一味なる崔子南は懲役三年、詳炳は懲役一年六ヶ月、吳秦泳は無罪を夫々言渡されたのであつた。

大正九年

平和宣布の大詔渙發

世界平和の克復に對し一月十三日を以て左の大詔は渙發せられた。

朕惟フニ今次ノ大戰亂ハ兵戈五年ニ彌リ世界ヲ聳動セシメタルモ我カ聯合諸友邦勇奮努力ノ威烈ニ賴リ戰氛一掃平和全ク復スルニ至リタルハ朕ノ甚タ懌フ所ナリ今斯ノ紛擾ノ局ヲ收メ安寧ヲ將來ニ規ルハ固ヨリ諸友邦ノ協同愛理ニ須タサルヘカラス嚮ニ媾和會議ノ佛國ニ開カルルヤ朕亦全權委員ヲ簡派シ其ノ商議ニ參セシメシニ平和永遠ノ協定新ニ成リ國際聯盟ノ規模斯ニ立ツ是レ朕カ中心實ニ欣幸トスル所ナルト共ニ又今後國家負荷ノ重大ナルヲ感セスンハアラサルナリ

今ヤ世運一展シ時局丕ニ變ス宜シク奮勵自彊隨時順應ノ道ヲ講スヘキノ秋ナリ爾臣民其レ深ク之ニ省シ進ミテハ萬國ノ公是ニ循ヒ世界ノ大經ニ仗リ以テ聯盟平和ノ實ヲ擧ケムコトヲ思ヒ退イテハ重厚堅實ヲ旨トシ浮華驕奢ヲ戒メ國力ヲ培養シテ時世ノ進運ニ伴ハムコトニ勉メサルヘカラス

朕ハ永ク友邦ト偕ニ和平ノ度ニ賴リ休明ノ澤ヲ同クセムコトヲ期シ朕カ忠良ナル臣民ノ一心協力ニ倚籍シ衆庶ノ康福ヲ充足シ文明ノ風化ヲ廣敷シ益々祖宗ノ洪業ヲ光恢セムコトヲ庶幾フ爾臣民其レ克ク朕カ旨ヲ體セヨ

御名御璽

大正九年一月十日

各大臣副署

國技館新築落成

江戸時代以來の帝都の名物たる兩國回向院の大相撲は曩に明治四十五年の二月、新たに常設の國技館が創建され華々しく開館したるが大正六年十一月二十九日夜半端なく出火して全部燒失し且つ回向院も類燒に歸した。之が爲め翌七月の春場所より九段の靖國神社境

内の相撲場に假小屋を設けて擧行し、一方燒跡の兩國に再建築中であつたが漸く工事完く竣成を告げたので、大正九年の本場所から再建新粧せる國技館に於て擧行する事となつた。久し振りの本場所擧行なので好角家は一月五日發表の新番附を待ち兼ねた事とて、初日以來多大の盛況を示した。殊に當春場所の番附は頗る面目を一新し、西方張出しの大關朝潮は引退して年寄となり、東方は栃木山、大錦對島洋、常の花は舊の儘であつたが小結の九州山は前頭三枚に落ち、代つて源氏山が六枚目から一躍小結に昇進した。又西方は鳳、千葉崎は其儘なりしも關脇の藤の川が前頭八枚目に激落し、前頭三枚目の三杉磯が一躍關脇に昇進したのであつた。而して當場所に於ける優勝旗は六場所振りにて西方の勝利獲得に歸した。

尼港慘殺事件

一月六日、日本及び英佛の支援によりて成立したる西比利亞のオムスク政府は、過激派の爲めに遂に倒壞し、コルチヤツク提督は沒落の已むなきに至るや、忽ち過激派は東漸して各地方に擾亂を見るに至つたので、我國は此の形勢に鑑み約五千の增兵を行つたが、一方暴惡なる過激派バルチザンは二月十二日より五月下旬に亘り尼港即ちニコライエフスクに於て我が領事石田虎松を始め守備隊將卒百三十餘名、海軍將卒四十餘名及び居留民三百五十名合計七百餘名老幼男女の別なく悉く虐殺したのであつた。

露領ニコライエフスクは黑龍江口に臨める港で沿海漁業の中心地であるので、邦人は著しく此地に發展し、大正七年には居留民四百を算ふるに至り、殊に每年六月より十月に至る解氷期には此地に集まるもの頗る多かつた。世界大戰に際し過激派の勃興に當りて、此地に在りし多數の獨墺俘虜は悉く過激派に合流して猛然策動を爲せるよりして極東は多大の危險に瀕した。依て我國は米國と共にチエツク救援の下に、曩に第十二師團の一部を浦鹽に派遣し、又沿海を警戒する爲め、第三水雷戰隊を尼港方面に派遣し、次で第三艦隊を同方面に派遣し、帝國及與國臣民の保護に任じた。然るに尼港過激派軍はハバロフスクの過激派軍と策應して反抗的態度に出づる形勢ありし爲め第三艦隊司令長官有馬中將は九月七日陸戰隊を揚陸してチスイラフ砲臺、過激派軍本營及兵營を占領し武裝解除を行つて獨墺捕虜を我國に收容した。斯くて我軍は尼港を占領して黑龍江の死命を制する必要を生じ又此方面に行動中の海軍部隊は結氷前に撤退すべきを以て浦鹽派遣軍司令官はハバロフスクより一部隊を尼港に派遣するに決し十九日歩兵第二十四聯隊第二大隊は黑龍江を下航して同月廿四日尼港に着し陸戰隊と交代して守備に任じたので、我艦隊は十月中旬結氷前に尼港を撤退した。

然るに一時勢威隆盛を極めたりしコルチヤツク政府は八年の晩秋に至りウラル戰線に於て敗れた爲め政府は動搖を來し十一月十五日同政府はオムスクを撤退するの已むなきに至り、之が爲め西比利亞の政情は頓に惡化し、極東露領各地の過激派は又々擡頭し、九年一月上旬には遂にコルチヤツク政府は崩壞し、過激派は大に勢力を得て、尼港方面は人心大に動搖を來した。仍て我守備隊は日露自衛團及露軍と協力して住民の保護に任じた。然るに同月二十四日及二十六日尼港駐在三宅海軍少佐及び石田領事より海軍々令部長及び外務大臣に對して陸戰隊派遣の具申があつたので救援隊派遣の計畫中、過激派は益々尼港に迫り同月二十八日チヌイラフ砲臺を占領し二月五日更に我無線電信所附近を砲擊し、四日守備隊も亦砲擊されて遂に同地を撤退し六日海軍無線電信隊に合したが、敵は更に陣地を進めて砲擊を繼續したる爲め、電信室に砲火集中して炸裂せる彈丸の爲めに電波は妨げられ、此際電文は爲めに斷續し僅に「吾等四十三名の無線電信局守備隊は枕を列べて此地に戰死せるも後日救援隊來り此無線電信局と共に吾等の死骸は我隊に收容さるべし、敵の照準は極めて的確なり」と辛ふじて解さるゝばかり送信中、敵彈は電信機に命中して送電不可能となりし爲め隊員は自ら火を放ちて局舍を燒却し塚本中尉の率ゆる一箇小隊と共に死力を盡して敵の重圍を突破し吹雪を冒して漸く尼港の石川大隊の本隊に合した。此際榊原海軍大尉倉持陸軍々曹、中澤、市野一等卒は死傷したのであつた。然るに我救援隊は二月上旬軍艦三笠及び見島をアレキサンドロフスクに派遣したるが兩艦は流氷の危險を冒し十五日亞港の南方二十哩のアグメオ沖に到達したるが堅氷の爲め是れ以上北進不可能にて已むなく尼港救援隊は一時旭川にて待命する事となつた。

然るに一方、尼港にては二月十二日以後再び戰鬪開始されたるが、過激派軍は反過激派軍及び日本軍の猛烈なる抵抗の爲め容易に尼港に入京し得ざるより、日本軍に戰鬪中止の提議を爲し、二十三日ハバロフスク駐在の山田旅團長は陸軍當局の指令に基き過激派軍司令官と會見して戰鬪中止を約し、兩軍司令官連名を以て兩軍に電報した。玆に於て尼港に於ける石川大隊は過激派軍の尼港入市を承諾したる爲め同軍は續々入市し二十八日日露兩軍將校の懇話會は同市の公園に開催された。然るに何ぞ圖らん是れ過激派軍の惡辣なる欺瞞策であつた。果然過激派軍の尼港に入市するや、市内に於る舊露西亞帝國に屬する知識階級及び資產階級を根本的に潰滅するを目的とし、非常なる蠻行を所在に演じ、資產の掠奪老幼男女を焚殺し、有らゆる慘虐を行ひ、三月五日迄に慘殺されたるもの實に二千四百人に達した。而して野獸の如き過激派軍は過般の協約を一片の反古と爲し三月十一日參謀長の名を以て我軍に武裝解除を要求し來つたので、石川大隊長は大に憤り、陸海軍協議の上、領事館は海軍無線電信其守備に當り邦人の保護は陸軍是に當る事とし、機先を制して三月十二日昧爽、石川少佐は卒六十名と義勇團員五十名を引率して前進し、過激派司令部なるヌーベリ商會を襲擊して司令官トリビーチン及び女參謀長ニーナを殺さんとして遺憾長蛇を逸し、商會を燒却してチヌイラフ砲臺占領に向ひ激戰したるが我が戰況不利の爲め島田商會に後退して應戰したるも同商會は敵彈の爲め燒失せるを以て遂に領事館に引揚げた。然るに我領事館に避難中の同胞は途上老

幼男女悉く慘殺され、辛ふじて毒手を逃れて領事館　辿り着きたるものは軍隊と合せて僅に二百四十五人であつた。

斯て我同胞の領事館に籠城するや、過激派軍は殘留せる諸財産を掠奪し、家屋に放火し、進んで領事館を砲擊した。玆に於て避難せる我同胞一同は今は是迄なりと死を決し男子は悉く武器を採り、女、小兒は彈藥を運び、食糧を作り、又は負傷者を看護し、十二日午後より翌十三日迄官民共に悪戰苦鬪を續け、十三日の午後には生存者は僅に二十八名、一人として負傷せざる者なく、彈丸と共に精力も盡き果て、木造建築の領事館は敵彈の爲めに火を發して燒け落ちたるが、同胞男女は共に潔く萬歳を高唱して猛火の裡に投じ壯烈なる最期を遂げた。此際石川領事は十三日の夜半運命既に窮まると見るや自ら大禮裝を爲し、夫人末子に命じて紋服に着換へさせた上、重要書類を燒却し令息寅雄、令孃あや子と共に菊花御紋章入りの銀盃に最後の別杯を酌み交し、ピストルを以て先づ令息を斃し次で合掌せる夫人及令孃を斃して後自殺を遂げた。又海軍少佐三宅駿五は敵襲と共に敵軍中に突入して戰死したのであつた。

是より先、石川大隊の一部は領事館救援に赴いた一隊と別れて大隊本部に引上げたが、敵の攻擊目標は我が守備隊本部に移り攻擊益々猛烈となり三月十二日午後七時半最後の運命窮迫したので、喇叭卒軍曹鈴木清美以下兵卒十四名は御眞影及重要書類を燒棄して中隊兵舍に會し健氣にも孤立無援の地に防戰六日間に及んだ。然るに十七日に至り敵軍に捕虜となれる河本通譯を連行してハバロフスクの日本軍司令官よりの休戰命令を示し明十八日午前九時迄に回答すべき事を傳へた。玆に於て生殘つた我士卒は戰鬪を中止し此狀況を詳細報告の上潔く死する事に衆議一決し先づ病院より武裝を解除し、武器彈藥を全部赤衞軍に引渡した。是れ實に三月十八日午前十時であつた。斯て丸腰となれる軍隊の一部と生殘せる同胞百四十名は欺かれて黑龍江の獄舍に投ぜられた。一方曩に石田領事の無電によつて尼港在留民の生命財産危急に瀕せるを知つた我外務省及陸海當局は敍上の如く軍艦三笠、見島の二艦を北進せしめしも流氷の爲め前進を阻止され、飛行機にて亞港を偵察の上、三笠より陸戰隊を上陸せしめ捕虜となれる同胞四十名を救出したるも、尼港は五月解氷の期に至らざれば救援不可能なる事を判明した。然るに三月下旬に至り情勢又々急を告げたので四月十九日尼港救援軍は再び乘船を命ぜられて多門大佐之を率ゐる三笠、見島援護の下に亞港に至つて之を占領し、二十三日尼港司令官トリピーチンに同胞の情況を問合せ、五月十三日多門支隊は亞港を出發して十四日デカストリーに上陸し、之より北方百哩の尼港に向て急行しキチ湖を渡り、一路マリンスクを衞かんとし、一方は五月一日新に尼港救援軍司令官に任ぜられた津野陸軍少將の命により歩兵二聯隊第三大隊中の殘部二中隊は五月二十八日迄にソフインスクに於て多門支隊と合すべく急行したが、尼港入市中の過激派軍は到底敵すべからざるを知つて牢獄に收容中の日本人處分を議し五月二十四日の夜半悉く之を慘殺し火を放つて逃れた。斯くとも知らず多門支隊は二十五日マリンスクに進出し、國分枝隊及び中村少將の臨時海軍派遣隊と合して黑龍江を下り三十一日オスークレセンスコエに入り六月三日午前五時ツノールの敵を擊退して尼港に入りチヌイラフ要塞を占領したが、時既に遲くして救援すべき同胞は敵の毒手に斃れたる後にて、一人の生存者なく、尼港全市は焦土と化し餘炎尙止まざる慘狀であつた。

尼港慘虐の報一とたび日本内地に傳はるや、朝野を擧げて駭然として哀悼し六月三日和田砲兵大尉が石田領事の遺骨を携へて上野驛に歸着するや翌二十四日貴衆兩院聯合追悼は議院内の前庭に開かれた。又、同日水戸常盤公園に於ても追悼會は催された。後九段坂上に殉難碑を建設して同胞の靈を弔ふたのであつた。

李王世子垠殿下御婚儀

朝鮮李王家世子垠殿下には大正九年四月二十八日を以て梨本宮方子女王殿下と芽出度結婚の御儀式を擧げさせ給ふた。垠殿下は故李太王の第三王子にまし〳〵明治三十年十月二十日の御誕生、御歳十一歳の時、伊藤博文公の薦めに依つて東京へ御留學、末松子爵御養育掛の下に御勉學あり、明治四十一年一月學習院御入學同院御卒業の後、陸軍士官學校に御入學、同校御卒業後、六年十月陸軍少尉に御任官、御結婚後間もなく中尉に御陞進大勳位菊花大綬章を賜はつた。其後陸軍大學に御入學御卒ず參謀本部附とならせられた。現に陸軍歩兵中佐であらせらる。妃方子女王殿下は梨本元帥宮守正王殿下の第一王女にまし〳〵明治三十四年の御誕生であらせらる。

羅馬尼皇太子御來朝

羅馬尼皇太子カロル殿下には大正九年六月二十日大阪に御上陸あらせられ、二十三日を以て御入京あらせられた。當日我が東宮殿下には畏くも東京驛に御出迎へありて、御同車にて霞ヶ關離宮まで御案内あそばされた。カロル殿下には七月四日まで御滯京あらせられ而して同日關西へ向はせられ、京阪奈良地方を御漫遊の後、同月二十七日横濱から御出發御歸國の途に就かせられたが、殿下御來遊の目的は皇室と共に同國工業開發の資金一億五千萬圓の投資を朝野に求められたのであつたが擔保品等の問題で纏まらなかつたものである。

新たに國勢院設置さる

内閣總理大臣の管理所屬の下に、新たに國勢院なるものが大正九年五月十五日勅令第百三十九號を以て其の官制が公布されて設置されることとなつた。而して同院は左の事務を掌るのである。

一、行政各部統計の統一に關する事務
二、人口統計其他の國勢の基本に關する統計にして行政各部に專屬せざるものに屬する事務
三、統計に關する報告の刊行及內外統計表の交換に關する事務
四、統計職員の養成並各官廳の統計主體者の招集及會議に關する事務
五、軍需工業動員法施行に關する事項の統轄の事務
六、前號の統轄の爲めに必要なる事務の執行の事務
七、軍需工業復員に關する調査事務

同院の職員は總裁(親任)部長二人(勅任)其他に秘書官、書記官、事務官、統計官、技師、統計官補、屬、技手等、又別に院務に參與せしむる爲め勅任待遇の參與官を置いた。而して國務院が新置された結果として軍需局並びに內閣統計局は廢さるゝに至つた。尙同院新設第一次の國務院總裁には小川平吉が就任し、第一部長は牛塚虎太郎、第二部長阿部壽準であつた。

社會局の新設

九年八月二十三日勅令第二百八十五號を以て內務省に社會局が新設せられた。此の社會局の管掌事務は左の諸事項である。

『賑恤及び救濟に關する事項、軍事救護に關する事項、失業の救濟及防止に關する事項、兒童保護に關する事項、其他社會事業に關する事項』

而して救貧、罹災救助、行路病人保護、職業紹介事業、住宅供給及其改良、公設浴場、公設質屋、無料又は低廉宿泊所の奬勵、部落改善、青年團體の指導、處女會の奬勵、民力涵養事業、兒童保護事業即ち幼兒、貧兒、棄兒、里子、貰子、迷子、不良少年少女、小學校令に依り就學を免除されたる精神身體の故障兒等の保護等を取扱ふのである。

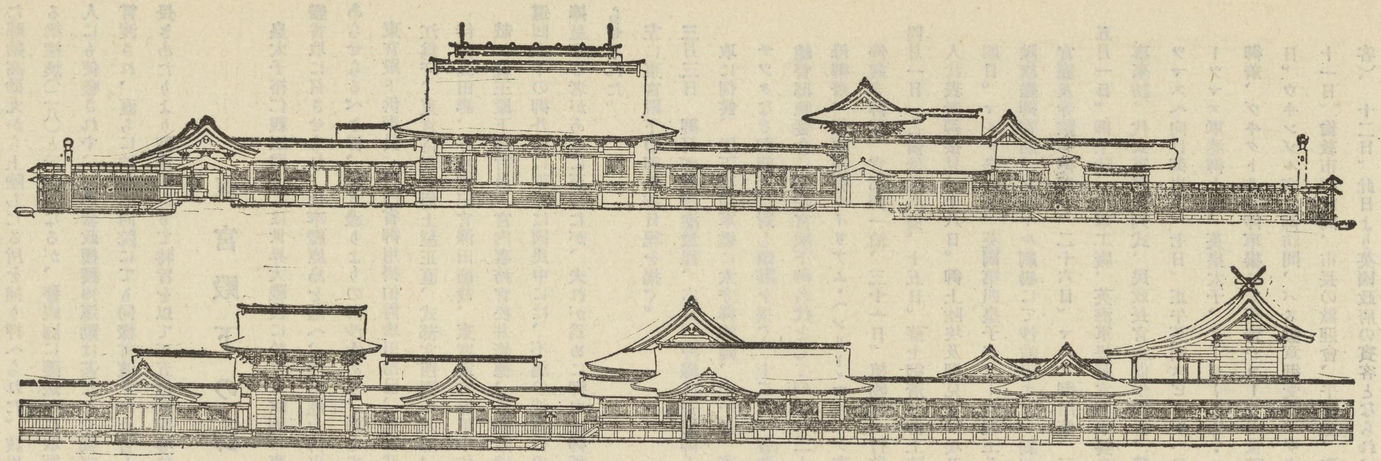
明治神宮御鎭座祭

明治大帝の神靈を齋き祀る明治神宮の御造營計劃は、曩に決定し、大正四年十月に地鎭祭を、翌五年三月に斫始祭を行ひ爾來御造營工事は着々として進捗し、八年四月に下拵へを運び、同五月に立柱祭を擧行し、同七月本殿の上棟祭を行ひ、斯くて大正九年十月全部完成を告げたので、翌十一月一日を以て崇嚴なる御鎭座祭を擧行された。今其御次第を記さんに、當日午前十時勅使として九條掌典長參進され、次で伏見宮明治神宮造營局總裁殿下を始め奉り、床次同副總裁並に御造營關係諸員、其他文武の顯官、貴衆兩院議員、貴婦人等約二千五百名禮容を臺へて參列し、宮中伶人の奏樂中、內陣に奉安せられたる御唐櫃は開かれ、一條宮司御靈代を奉じて恭々しく御帳臺に安置するの大儀を行はせらる。夫より勅使御祭文を奉讀し、終つて宮司之を拜受して神前に捧ぐ、次で海の物山の物十一種の神饌を供へ奉り、一條宮司は鞠躬として祝詞を白し御幣物を捧ぐると共に、九條勅使は更に祭文を拜讀せらる、次で伏見總裁宮殿下玉串を捧げて最初の拜禮を遊ばされて後、原首相一條宮司及び參列員總代東郷大勳位の諸氏順次拜禮あり、了つて撤饌、午前十一時御鎭座祭の盛典は終りを告げた。因に、神宮御造營御規模の概要一斑を記し奉らんに、御鎭座地の總面積は二十一萬八千八百九十三坪、內十九萬九千二百六十七坪世傳御料地、三千五百三坪普通御料地、一萬六千百二十三坪官有地第一種、元代々木陸軍練兵場の一部である棟數は十八棟御垣三重、鳥居四基、建坪總數六百五十六坪、玉籬內御敷地凡六千五百九十三坪一合五勺三才、玉籬の東西は廣狹によりて六十三間より五十間に渉り、南北は百二十間四方に鳥居あり、廻廊は東西三十三間、南北八十間、四方に神門あり、其南のものは八脚樓門である。廻廊の中心に拜殿あり、其左右は複廊となり、之によつて廻廊內を前後の二廊に分つて居る。內院及外院が卽ちこれである。最內廊である內玉籬卽ち透塀の一廊は、此內院にあつて凡そ二十間四方、本殿、祝詞舍、神庫の三宇を圍み、南に中門、北に玉籬門がある。神饌所は內院の東廻廊に沿ふて建てられ、同殿の東所方外玉籬寄りに神饌井及び祭器庫が並置されて居る。其他便殿、東西御車寄、直會殿、組立舞殿、祓舍、表手水舍、宿衞舍等がそれ〴〵の位置に在る。本殿屋上の千木堅魚木に七ケ所と其他の御建物に對して丈高き松の木四本に避雷の設備がある。西玉籬鳥居外の北方に水槽と定置式がソリンポンプ二機を地下に裝置し、玉籬後半部に鐵管を埋設して四ケ所に消火栓がある。社殿御建物の床は本殿、神殿、神饌所、祭器庫及び便殿を除く外は、皆石敷にして岡山縣此木島及び茨城縣稻田產の石材を用ひて、總材積三萬五千立方尺、御造營用木材は臺灣阿里山の扁柏及び木曾御料林の檜の二種で、總素木造、兩者合せて總數尺〆貳萬本、大鳥居の如きは實に阿里山の扁柏一本にて出來て居る。神殿の御屋根は玉籬の銅葺を除く外は、總て檜皮葺で大部分は高野山より、一部分は丹波より採用し、總量十二萬貫であつたと云ふ。

而して神宮內苑の總工費は實に五百五十八萬二千四百二十一圓十錢に上り、內社殿其他の建築費百六十萬圓、土木工事に六十二萬圓林苑費六十六萬五千圓、假設物費十五萬圓、神宮裝飾及び祭典費十八萬八千圓、境外道路補助費三十萬圓、土地買收費土工費十二萬八

民地拋棄に關する條項履行の義務なきことを聯盟に向つて通告したせしむるに贊成意見を抱懷せる英國勞働階級の爲め、獨逸加入を許可するものなるべしと演說し、多大の注意を惹起した。

又日本委員は十一月三十日總會に於て演說し、人種平等案に就て述べる所あり、日本は今次の總會に於て提案することを差控ふべきも、好機會の到來せる場合は、時を外づさず再び提出する意志を有する旨言明し、列國の委員を一驚せしめたといふ。



明治神宮全景　(上)社殿正面圖　(下)社殿側面圖

千圓を要したのであつた。

尙土工に就ては大正四年以來、每日三四百人の工人を使用し、或は在鄕軍人、青年團の勞役奉仕等ありて完成したものである。青年團の奉仕は初め大正八年十月先づ靜岡縣安倍郡有度村の青年團五十名を選拔して十日間奉仕せしめたるに、其後各地より申出であり、後には一團體六十人、十日間に限られたるも、日本全國より集り、總數七千人以上に達した。此外各地より奉獻せる植樹は百五十一種、十萬本に上り、在來のものと合すれば實に十二萬九千九百三十二本であつた。

國際聯盟第一回總會

國際聯盟總會は豫定の通り一九二〇年即ち大正九年十一月十五日より、瑞西ゼネバ市のリフオーメーションホールに於て開會され、四十一個國の獨立國及び英國領土の代表者が之れに參加した。獨、墺洪、露、幷びに米國は是れに加はらなかつた。開會當日は常任議長として白耳義首席代表イーマンス氏が選擧された。而して總會は左の六個の委員會を設定し、各委員長の下に問題の細目を議せしむることゝなつた。

第一部　一般組織。委員長バルフオア(英)　副委員長顧維鈞(支)

第二部　衛生交通に關する專門機關幷に常任財政機關。委員長チツトニー(伊)　副委員長タケ・ヨネスコ(羅)

第三部　法律問題幷に國際裁判所設置。委員長レオン・ブルジョア(佛)　副委員長コスタ(葡)

第四部　國際聯盟財務。委員長キノネス・ドレチン(西)　副委員長スツクポ(コロンビア)

第五部　聯盟新加入國事務。委員長ユーネーヴス(智)　副委員長ブランコ(ウルグワイ)

第六部　軍備幷に委任統治。委員長ブランチング(瑞典)　副委員長アゲウロ(玖馬)

總會開會第二日に於て副議長は十二名を置くべしとの英國案が採用せられ、其の內三名は歐洲以外から出すべしとの日本案が承認せられた。而して十八日には左の六名が副議長に選擧された。

石井子爵(日本)、カルネベツク(和蘭)、ブエールレドン(亞爾然丁)ベーネス(チエツク・スロヴアキア)、サー・ジョージ・フオスター(加奈陀)、オクダヴイナ(伯剌西爾)、

一方聯盟會に加入を承認せられぬ獨逸は、聯盟會の存在に對して屢々其の決議の無效を唱へられて居たが、十九日に至り同國は最早海外植民地拋棄に關する條項履行の義務なきことを聯盟に向つて通告した。右に付き英國代表バーンス氏は自身は成るべく速に舊敵國を加盟せしむるに贊成意見を抱懷せる英國勞働階級の爲め、獨逸加入を許可せんことを望むものにして全世界の勞働社會又その意見を同ふす

閔元植暗殺事件

朝鮮中樞院副參事、國民協會々長、朝鮮時事新報社長たる閔元植は、朝鮮人參政權獲得運動の團長として同志全昌壽、鄭炳朝、丁秀泰、久野重吉氏等其他數名と共に上京し、東京ステーションホテルに投宿し專ら衆議院議員中、各方面の有力者間に運動を爲し大正十年二月十五日牧山代議士の紹介にて叙上の請願書を提出した。然るに翌十六日の朝七時半電話にて日本大學生李基寧と稱して面會を申込み來り次で九時半頃、件の怪鮮人は來り、閔氏と會談の際、激論を始めた結果怪鮮人は短刀を以て閔氏を刺殺し其儘ホテルを逃走したるが、一方不慮の兇刄に斃れたる閔氏側では夫々手續を終り十七日午後一時より東京驛構内待合室の一隅に於て告別式を行ふた。而して其筋にては右の兇漢に就て搜索の結果、兇漢は横濱を發して神戸を經北滿に高飛びせんとする途中二十三日午前九時長崎に寄港した郵船高砂丸から上陸したる所を捕り押へられた。該兇漢は朝鮮黃海道延白銀川面字東梁村の生れで當時牛込區早稻田鶴卷町に居住せる梁槿煥(二八)と云ふ者なるが、警視廳に護送され取調に對して、彼の自白する所によると、閔元植を殺害せるは自分一個の考にて何人にも使嗾されず、閔の參政權獲得運動は甚だしく獨立運動を阻害すると認めたからであるといふ。而して其後裁判の結果無期懲役を言渡され、直ちに控訴し同院にても同樣言渡され上告したるも思ふ所ありて上告を取下げ原裁判に服罪した。一方閔元植は二月十七日長きあたりより御沙汰ありて特旨を以て正五位勳四等に敍せられ瑞寶章を賜ふた。

東宮殿下の御外遊

皇太子裕仁親王殿下には世界大戰後に於ける歐洲の事象御見學の御思召を以て御渡歐遊ばさるゝ事に決定し、大正十年三月三日、軍艦香取に召させられ、供奉艦鹿島を隨へ、横濱港を御出發あらせられた。之より先、閑院宮載仁親王殿下には東宮殿下御外遊中御隨伴あらせらるべき旨、畏き邊りよりの御沙汰あり、而して供奉員隨行員は夫々左の如く任命せられた。

東宮殿下供奉員、宮內省御用掛伯爵珍田捨巳、東宮武官長陸軍中將奈良武次、宮內省御用掛醫學博士三浦謹之助、東宮侍從長子爵入江爲守、東宮侍從子爵土屋正直、式部官西園寺八郎、東宮職御用掛海軍大佐山本信次郎、東宮主事戶田氏秀、東宮侍從伯爵龜井玆常侍醫高田壽、外務書記官澤田節哉、東宮武官海軍中佐及川古志郎、同陸軍步兵少佐濱田豐城、宮內書記官伯爵二荒芳德。

載仁親王殿下隨行員。宮內事務官松井修德、皇族附武官騎兵中佐福田義彌、艦隊司令官海軍中將小栗孝三郎。

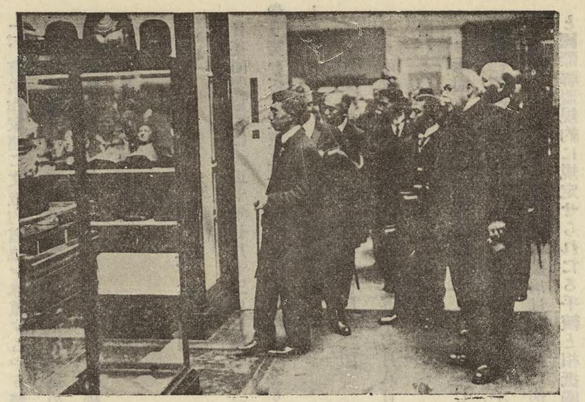
這回殿下の御外遊に就ては國民中には、不逞の徒横行の折柄、萬一殿下御身邊の危險を危惧し、御外遊御取止めの儀を懇願し上奏文を捧呈する者があるに至つたが、夫れが爲めに御中止御延期などの御沙汰はなく御豫定の如く、三月三日の吉辰を以て横濱港を御發航あらせられた。

左に東宮殿下の御外遊日程を揭ぐ。

三月三日　御召艦横濱港發程、六日。沖繩に寄港御上陸首里城行啓、八日。御召艦日本領海を離る、十日、香港入港太守スタップ香取に伺候、殿下英國軍艦に太守御答禮、十一日。英艦に御搭乘ストーン・カツター島砲臺御見學、同地各英字新聞殿下のデモクラチツクなる御態度に對し頌辭を揭ぐ、十二日。香港御發航、十八日。新嘉坡入港、總督サー・ローレンス・ギルマルド伺候、十九日總督邸晩餐會に閑院宮殿下御名代として列席、二十日。御微行御上陸、博物館御見物、二十二日。新嘉坡御發航、二十八日。古倫母御着、錫蘭總督ウイリアム・ヘンリー・マニング來訪、同氏案內にて御上陸總督邸行啓、二十九日。カンディー總督官邸へ行啓、佛齒寺御覽、官邸御一泊、三十一日。植物園へ行啓、御歸艦。

四月一日　古倫母御出發、十五日。蘇士御着、御上陸御見物、十六日。御發航、運河御通過、十七日。坡士西(ポートサイド)御着、英國官民在留邦人代表者御接見、十八日。御上陸埃及御見物、埃及王晩餐會御臨場、十九日。埃及王公式御訪問、二十一日。坡士西御出發、二十四日。マルタ島御着、英國第四皇子ジョージ親王及びマルタ總督、地中艦隊司令長官の訪問を受けらる、御上陸總督府及地中海艦隊旗艦御答訪、ローヤル劇場にて沙翁のオセロ劇御見物、夜公式晩餐會に御臨場、二十五日。日本海軍戰歿者追悼式御臨場、總督官廳及寺院へ御成り、二十六日。マルタ御出航、三十日。ジブラルタル島御着、御上陸少年團競馬御覽、政府晩餐會御臨席。

五月一日。御上陸、海軍工廠、英海軍提督官邸午餐會、貯水池、舊砲臺等御成り、二日。西班牙皇室及政府代表者アルジェシラス知事來訪、代表軍隊分列式、民政長官主催午餐會、總督園遊會御臨場、夜總督以下英國官憲及米國艦隊司令長官御招宴、三日。ポーツマスへ向け御出港、七日。正午英國スピットヘツド御安着、八日。大西洋艦隊司令長官マツデン提督の午餐會に臺臨、九日。ポーツマス軍港御上陸、英皇太子、アーサー・オブ・コンノート兩殿下を始め英國官民の歡迎を受けられ、直ちに特別列車にて倫敦に御着、ヴヰクトリア停車場にて英帝ジョージ五世陛下と御握手、馬車に御同乘バツキンガム宮殿に入らる、宮殿晩餐會御臨席、十日。ウヰンゾル宮殿御訪問、バス勳章御受領、ヴヰクトリア女王及エドワード七世兩陛下御陵御參拜、外相カーゾン伯主催晩餐會十一日。倫敦市御訪問、市長の歡迎會、午餐會、聖ジエームス宮殿の英國皇太子主催公式晩餐會御臨席(以上三日間英國帝室の賓客)、十二日。此日より英國政府の賓客となられ、メイフエーヤーのチエスターフヰールドハウスに移らる、上院下院御見學、首



大英博物館行啓

相ロイド・ジョージ氏主催ランカスターハウス晩餐會は炭坑爭議の爲め思召により中止、十三日。英蘭銀行、倫敦塔、日本大使館に於ける東宮殿下御主催公式晩餐會、十四日。牛津大學行啓、夜ダリマ劇場に臺臨、花形女優ジョース・コリンズ孃に花籠下賜、十五日。クランフォード少年義勇兵御閲兵、十六日。陸軍航空隊本部、グリニッチ天文臺、海軍兵學校等行啓、十七日。オルダーショット兵營、サンドハース陸軍大學校行啓、十八日。劍橋大學、同大學より名譽博士の學位を御受領、エヂンバラへ向け御出發、十九日。エヂンバラ御到着、ホーリールード宮に於て英國皇帝の賓客とならせらる、カセドラル、エヂンバラ堂御巡覽、同市長主催公式晩餐會御臨幸、二十日。ロジース晩餐會、エヂンバラ大學にて名譽法學博士の學位御受領、二十一日。少年義勇兵御閲兵、エヂンバラよりハイランドに向はれパースシャーのブレーア・アソールに於てアソール公の賓客となられ釣魚の御遊、二十二日。近郊御巡覽、二十三日。釣魚御遊、二十四日。エヂンバラよりマンチエスターに向はれ二日間同市長の賓客とならせらる、二十五日。ヴイツカース電氣工場行啓、職工食堂にて一志の晝食を召さる、マンチエスター市長午餐會、グロスレーモーター會社臺覽、二十六日。倫敦御歸還、日本協會主催晩餐會主賓として御臨席、二十七日、イートン學院歡迎會御臨席、バツキンガム宮殿、アレキサンドル皇太后陛下御訪問、日本居留民主催園遊會臺臨、二十八日。テエルシー遊園地、オリンピヤ行啓、倫敦市に一萬磅御下賜、二十九日。タイムス紙に告別の御挨拶御寄書、ヴヰクトリア停車場にて英國皇帝陛下、同皇太子殿下と御訣別、ポーツマスにて香取に御乘艦、三十日。香取、鹿島ポーツマス出發、英國御退去、佛國アープル御着、三十一日。アープル御上陸、巴里御入京、佛國內相、海相、大統領代理、首相代理の御出迎を受けらる、御旅館は日本大使館大使官邸、石井大使主催晩餐會御臨席。

六月一日。エルゼー宮殿に大統領ミルラン氏御訪問、ミルラン氏答訪、二日。エッフエル塔御覽、無名兵士の墓所花環下賜、フオツシュ元帥主催慈善舞踊會御臨席、三日。ルーヴル博物館、奈翁百年祭臺臨、五日。マルメーゾン、サンジエルマン、古器類博物館、サ帥の御案內にて巴里郊外フオンテンブロー砲兵學校、奈翁墳墓、市歡迎會、海軍大臣邸晩餐會、オペラ等行啓、四日。ベタン元ンクルー公園等御巡覽、六日。シエンリーの日佛協會々長主催午餐會、コンビニーニュ宮殿御覽、七日。東久邇宮殿下午餐會、石井大使主催晩餐會、八日。サンジエルマン御巡覽、オペラ御見物、十日。白耳義ブラツセル市へ御成り、アルベルト陛下、皇子レオポルド殿下御出迎皇帝主催晩餐會臺臨、十一日。ザヴキアー縣皇室御陵、皇帝皇后兩陛下主催離宮午餐會、皇帝御同列にてサンカントネル公園、コンゴー博物館、夜は皇太子御同列にて首相の晩餐會、市長主催レセプション臺臨、十二日。裁判所、ウオタルローー古戰場、午後皇后陛下御案內にてカントラネル公園馬匹共進會、夜日本大使館主催晩餐會、同夜を以て宮中を御辭去、ホテル・アストリアに移らる、十三日。オスタンド、ニューポール、イーブル等の戰跡御巡覽、十四日。アープル市歡迎會、日白協會レセプション臺臨、白帝に御訣別、安達大使主催晩餐會御臨席、十五日。ブラツセル市御退去、和蘭アムステルダム市に御入京、女王殿下晩餐會御臨場十六日。和蘭皇婿殿下の御案內にて金剛石會社仕上工場、博物館、市中御參觀、市役所レセプション臺臨、海牙へ御成り、皇太后陛下晩餐會、外務大臣主催宴會御臨席、十七日。平和宮殿御見物後ロツテルダム御見物、夜女王陛下の告別宴、十八日。海牙王宮御退去、ホテル・デザンドに入らるアムステルダム動物園、田付公使主催晩餐會等御成り、十九日。フオン、オンメレン家御訪問、二十日。海牙御出發非公式にて白國アルヌ御立寄、ルーヴアン大學獨軍燒打の遺跡、リエージュ戰跡御見物巴里還啓、二十一日パンテオン及びノートルダム、下院上院御訪問、二十三日。セーブル陶器會社御覽後ベタン元帥の御案內にてストラスブルヒ戰跡御巡視、同市主催晝餐會、ライン河御舟遊、メツツへ向け御出發、二十四日。メツツ御訪問二十五日。ヴエルダン御訪問巴里御歸還、二十六日。巴里貧民救濟慈善市ロンシヤン競馬場等へ御成り、二十七日。西班牙大使館にて西班牙皇帝陛下と御會見、ゴーモン活動寫眞會社御見學、二十八日。サンクール萬國度

ライン河の御舟遊

量術事務所ソルボンヌ大學レセプション戰死者記念碑、大學創始者墳墓等御見物、二十九日。ブルベールへ成らせられホアゼン、マリクール其他の戰跡御見物、三十日。佛陸相主催午餐會、工藝學校御參觀。

七月一日。サン、シール陸軍士官學校、ブールジエー飛行場行啓、二日。ラ、ブリーのゴルフリンクへ成られ、御寫眞、御遊戯にてソルボンヌ大學法科教授ダルノードの佛國政治組織進講御聽取、三日。デスビレー元帥案内役にてガラン及府内、ボンベーニュ、ベリーオーパク等の戰跡並に三鞭酒製造所ポメリー會社等御巡覽、四日。ソンム騎兵學校行啓、五日。ラ、ブリーにてゴルフリンク御成り、プラス、シヤトー下水工事御覽、日本大使館にて陸軍大臣以下御招宴、六日。大統領邸告別御訪問、大使館員へ賜餐、七日。巴里御退去、ツーロン御着、香取に御乘艦、八日。御上陸、ボーヴアロン、コテー、ダゾールの一部御遊覽、ツーロン鎭守府司令長官等を艦隊晩餐會に御招待、九日。御召艦香取以下ツーロン御發程、伊太利へ向はる、十一日。ナポリ御到着、伊帝名代ピスカレナ提督御出迎、伊國驅逐艦にてカプリ御遊覽、十二日。羅馬に御入京、伊國皇帝停車場に御出迎、キルナーレ宮殿に御着、パンテオン先帝御陵御參拜市中御巡覽、十三日。伊帝御同列にてボルゲセ公園に於ける陸軍演習御覽、午後博物館、新美術館、古美術館御巡覽、夜大使館晩餐會、落合大使主催レセプション御臨席、十四日。羅馬古跡御巡覽、市役所にて市長主催レセプションに御臨席、同夜王宮にて伊帝御主催御訣別宴に臺臨、十五日。午前セントパオロ教會、ゲオウアニーラチラ教會御覽、午後羅馬法王御訪問、法王廳在勤外交團招待會臺臨、セントペトル聖堂御覽、十六日。法王廳、博物館、落合大使主催午餐會、法王廳内モザイク製造所等御成り、十七日。羅馬停車場に伊帝と御訣別、ナポリにて御乘艦、十八日。ポンペイ御覽、ナポリ御發航、御歸朝の途に就かる、二十二日。坡土西御入港、二十三日。坡土西御出港、二十四日。蘇士御入港、二十六日。蘇士御出港、三十日亞丁御入港、三十一日。亞丁御出港、

八月一日。亞丁御出港、九日。古倫母御入港、十一日。古倫母御出港、十八日。午前新嘉坡沖御假泊午後御出發、二十一日。カムラン灣御入港、二十四日。カムラン灣御上陸附近御遊覽、二十五日。カムラン灣御出港、二十八日。臺灣海峽御通過、

九月二日。館山灣に御到着、三日。横濱御入港。

小說家協會と無名作家同盟

小說家として屈指さるゝ菊池、久米、芥川、里見、德田、廣津、豐島、小川、加藤、加能、吉田、谷崎、宇野、江口、相馬、田中、室生等の十七作家が發起となり大正十年七月、小說家の相互扶助共濟を目的とする小說家協會なるものが創立された。其の規定に依ると同會は小說創作を職業とする者にして左記の資格を有するものを會員とするのである。

一、著名なる文藝雜誌乃至新聞に五篇以上の小說を發表したる事あるもの

一、小說の單行本を二冊以上發行したることあるもの（自費出版を除く）

又是れと殆んど時を同じうして無名作家同盟なるものが現はれた。此の同盟は、所謂有名作家の惰氣滿々たる空氣を打破すべく、未だ文壇に名を爲さざる無名作家が同盟して眞の藝術的良心に基きたる作品を發表し、文壇の迷夢を醒まさうといふ運動であつて、其の主唱者の顏觸は原田謙次、山崎斌、星野潤一、田中宇一郎、濱田廣介等の人々で、大體の運動方法としては左の如くである。

一、無名作家の爲めにも雜誌は相當の尊敬を以て其の頁を割愛するやう勸告する事

二、有名作家連に文壇的道德を尊重するやう警告する事

三、時流を一掃して新進活躍、後進指導の爲め公正に努力させる事

四、文壇を廣く一般に公開し一部有名作家の獨占に歸せしめぬ事

五、作品の商品化を救ふ事

日英兩國の共同通告

日英同盟協約は大正十年七月十三日を以て其の效力を失するに付き、將來協約の存續若しくは改訂の場合、國際聯盟規約と抵觸せぬやう努むべく大正九年七月八日日英兩國政府より國際聯盟に對して通告する所あつたが、大正十年七月十二日外務省より左の如く公表した。

日英共同通告　大正十年七月十二日　外務省公表

日英兩國政府は日英協約に關する客年七月八日國際聯盟に對する共同通告に關聯し更に本月七日附左の共同通告を同日國際聯盟に送致せり。

日本國及び大不列顛國政府は千九百二十年七月八日附共同通告を以て千九百十一年七月十三日の日英協約が千九百二十一年七月以後に繼續せらるゝ場合に於ては聯盟規約と矛盾せざる形式に於てせられざるべからずとの主義を兩國政府に於て承認せる旨國際聯盟に通告したるに因り兩國政府は今後更に何等かの措置を執るに至る迄本協約の效力存續中若し本協約條項に規定せられたる手續と國際聯盟規約に規定せられたる手續と相抵觸する事態發生したるときは聯盟規約所定の手續を採用すべく協約所定の手續に據らざることに合意成立したる旨茲に聯盟に通告す。

◎第二十一輯豫告◎

口　繪

◎『關東大震災宮城外苑の雜鬧』
（日本赤十字社藏）……五姓田芳柳畫伯筆

◎『米國の排日ポスター』（某氏藏）

玻璃版

◎原總理大臣の遭難……
◎ワシントン會議……
◎皇太子殿下の攝政御就任……
◎大隈侯の薨去と國民葬……
◎山縣公の國葬……
◎皇后陛下の御祈願……
◎平和博覽會の開會……
◎英國皇太子殿下の御來朝（一）……
◎英國皇太子殿下の御來朝（二）……
◎カロル殿下及びジョッフル元帥の來朝……
◎普通選擧權獲得運動の勃興……
◎攝政宮臺灣御巡遊……
◎關東大震災（一）……
◎關東大震災（二）……
◎關東大震災（三）……
◎空中より見たる大震災……
◎震災直後に發行せられたる謄寫版刷の官報號外……
◎大震直後の甘粕事件……
◎水平運動の勃興と鬪爭……
◎攝政宮御成婚……
◎憲政擁護運動・護憲三派……
◎國辱的排日法案の米議會通過……
◎萬國オリンピック大會に遠征……
◎第一回明治神宮大競技會……
◎大正年間の女性（一）……
◎大正年間の女性（二）……

記　事

大正十年九月東宮殿下の御歸朝より大本教の不敬事件、鐵道開通五十年祝賀祭、東宮殿下攝政御就任、ワシントン會議を始め、大正十一年の平和博覽會、漢字制限及び常用漢字千九百六十一字の決定事情、水平社創立大會、英皇太子の御來朝、東宮殿下の御納采の御儀、普選問題、及び十二年の關東大震災に至る一切を詳叙す。

◎本第二十輯は大正中期のものを集めてある。世界大戰の結果急速に進歩發達した航空術は到底他國の研究追隨を許さぬ程であつたので、我陸軍も海軍も大戰中より研究員を派遣して居つたが、大正八年一月佛國のフォーク大佐以下の飛行團は陸軍に、英國海軍のセルビン大佐以下の飛行團は海軍に招聘されて夫々優秀なる航空術を傳授しパラシュートジャンピングも此時始めて海軍に傳へられたのであつた。

◎同時に傳書鳩飼養法も傳へられた。世界大戰中、傳書鳩は通信任務に服して多大なる功績を擧げて居るので日本でも優秀なる鳩を佛國より寄贈されたので是の訓練法を習得し又一般愛鳩家にも頒與して飼養し今日の隆盛を來たしたのであつた。

◎東宮殿下の御外遊は建國以來の盛擧であつたが爲に賛否交〻論議され、供奉員西園寺八郎氏の如きは出發前暴漢に見舞はれた樣な騷ぎであつたが、東宮殿下御外遊の事は實に此期を除いては是を他日に望む機がない、のみならず大戰の狀景が戰爭當時其儘に殘つて居る此時御外遊御見學になる事は誠に絶好の機會であつたので、遂に御豫定通り御出發になつたが、約半歳の後御歸朝の御鹵簿を拜して、感激の涙に咽び乍ら帽子を振り、手巾を振つて萬歳を叫んだのも眞に押へ切れぬ喜びの發露であつて、叫びたい心持を胸に祕めて無言に靜肅に佇立して居るのに堪へられなかつたのであつた。そして此日から『我等の皇太子殿下』が非常に親しい又國民の極く近くに居らるゝ御方の樣に印象されたのであつた。

昭和十年六月廿日印刷納本
昭和十年六月廿五日發行
昭和十二年五月廿日五版發行

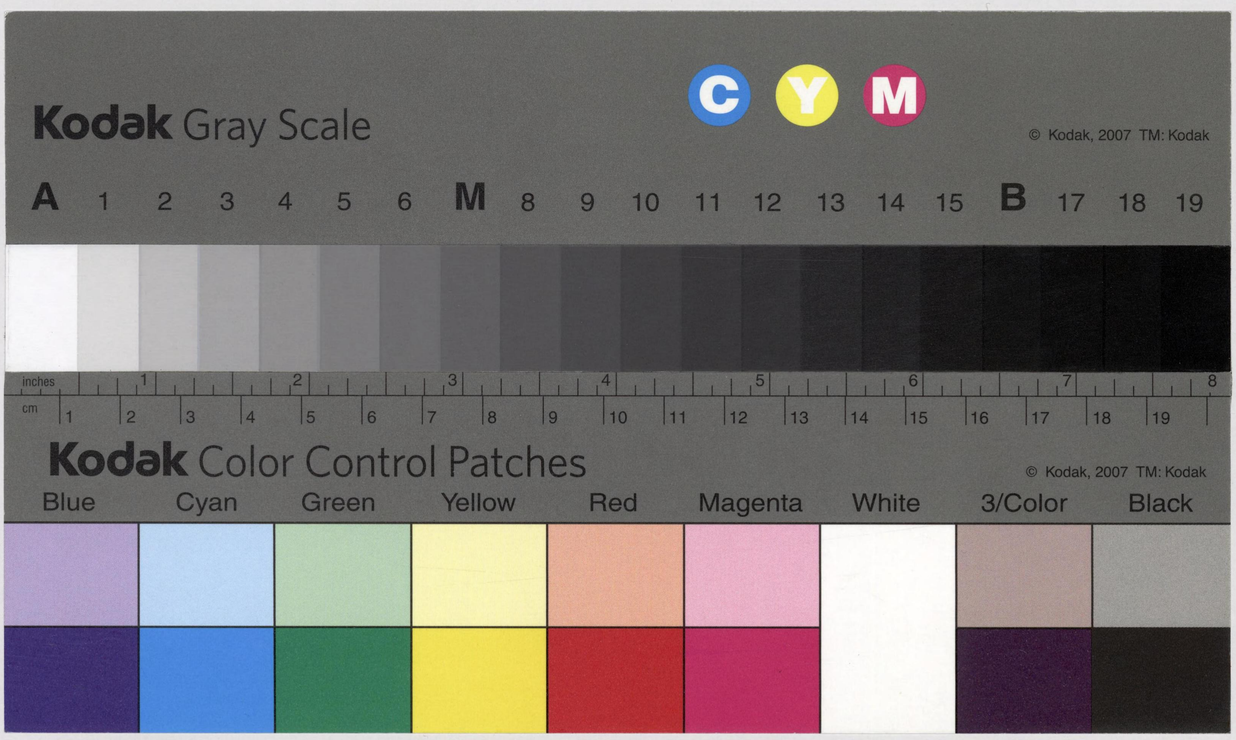
『幕末 明治 大正』回顧八十年史　第二十輯
定價　金壹圓貳拾錢（例鮮、滿洲、小笠原、樺太、臺灣及海外は送料別）

編輯兼發行者　東京市京橋區銀座五丁目四番地　大澤米造
印刷所　東京市神田區須田町二丁目十九番地　東洋文化協會印刷所
印刷者　東京市神田區須田町二丁目十九番地　早川一郎
印刷所　東京市小石川區西江戸川町十番地　井口印刷合名會社
發行所　東京市京橋區銀座五丁目四番地　東洋文化協會　電話銀座(57)〇四〇七番　六五六七番　振替口座東京三八三四八番

不許複寫複製轉載

取扱所

大阪市北區堂島上三丁目三番地　關西一手販賣元　萬伸社　電話北二一八二九番　振替大阪三九八番
大阪市住吉區阿倍野筋五ノ六五　東洋文化協會關西支部　神戸市楠町二丁目二ノ一　博文社　電話元町一八三五番　振替大阪二七六三番
小倉市京町七丁目一一六番地　太湖社　電話一〇三六番　振替福岡一六八三三番
大連市西公園町八九　東洋文化協會滿洲支社　電話大連二六三四九番　振替大連二六八八番
京城北米倉町九四　大正通信社　電話本局七七〇二番　振替京城七三四五番


Kodak Gray Scale
C Y M
© Kodak, 2007 TM: Kodak
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19
inches 1 2 3 4 5 6 7 8
cm 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19
Kodak Color Control Patches
© Kodak, 2007 TM: Kodak
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black